

平成 27 年度

全国学力・学習状況調査結果報告

川西市教育委員会

目 次

1. 調査の概要

- (1) 調査の目的
- (2) 実施日
- (3) 調査内容
- (4) 市内の参加状況
- (5) 分析の際の基準の考え方

2. 平成 27 年度教科に関する調査結果

【小学校国語】【小学校算数】【小学校理科】【中学校国語】【中学校数学】【中学校理科】

- ① 教科全体の平均正答率
- ② 度数分布図
- ③ 領域・事項別の平均正答率

3. 平成 27 年度生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査結果の概要

4. 今後の取り組みについて

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- なお、本調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面である。(平成 27 年度実施要項より)

(2) 実施日

平成 27 年 4 月 21 日 (火)

(3) 調査内容

- 小学校第 6 学年、中学校第 3 学年の児童生徒対象
- 教科に関する調査 (国語、算数・数学、理科) ※理科の悉皆調査は初めて実施
 - ①主として「知識」に関する問題 (A)
 - ②主として「活用」に関する問題 (B)※理科については、主として「知識」に関する問題と主に「活用」に関する問題を一体的に問う。
- 生活習慣や学習習慣等に関する質問紙調査
 - ①児童生徒に対する調査
 - ②学校に対する調査

(4) 市内の参加状況

- 小学校実施人数 (16 校)

国語 A	1、384 名	国語 B	1、384 名
算数 A	1、384 名	算数 B	1、385 名
理科	1、387 名		
児童質問紙	1、384 名		
- 中学校実施人数 (7 校)

国語 A	1、367 名	国語 B	1、367 名
数学 A	1、367 名	数学 B	1、368 名
理科	1、368 名		
生徒質問紙	1、367 名		

(5) 分析の際の基準の考え方

- 本市児童生徒と全国平均 (公立) との教科全体に関する比較は、次を基準とする。

+1.0%以上 (良好)、±0.9% (概ね良好)、-1.0%以下 (課題がある)

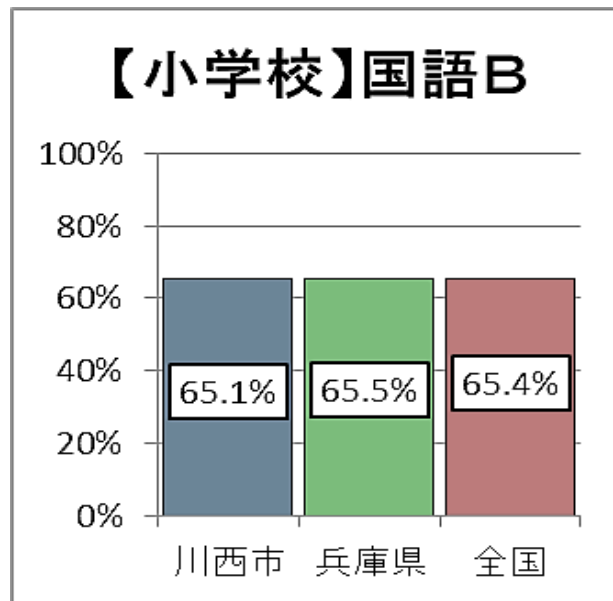
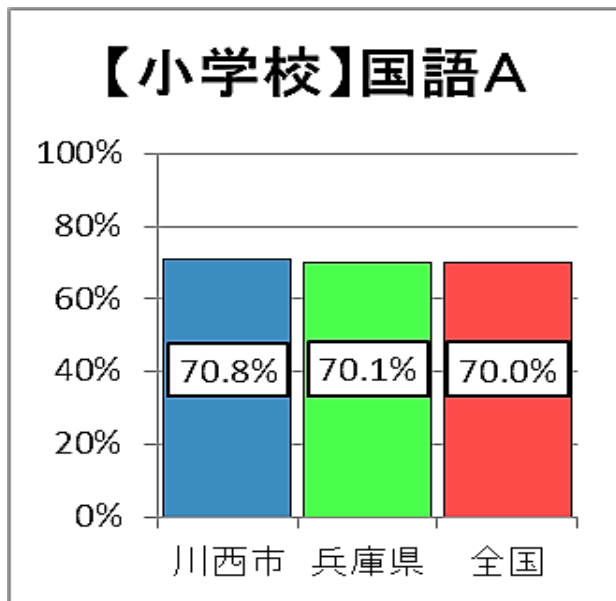
: 多くの児童生徒が理解している内容 : 課題のある内容

(A) は A 問題、(B) は B 問題を表す

2. 平成 27 年度教科に関する調査結果

調査結果 小学校国語

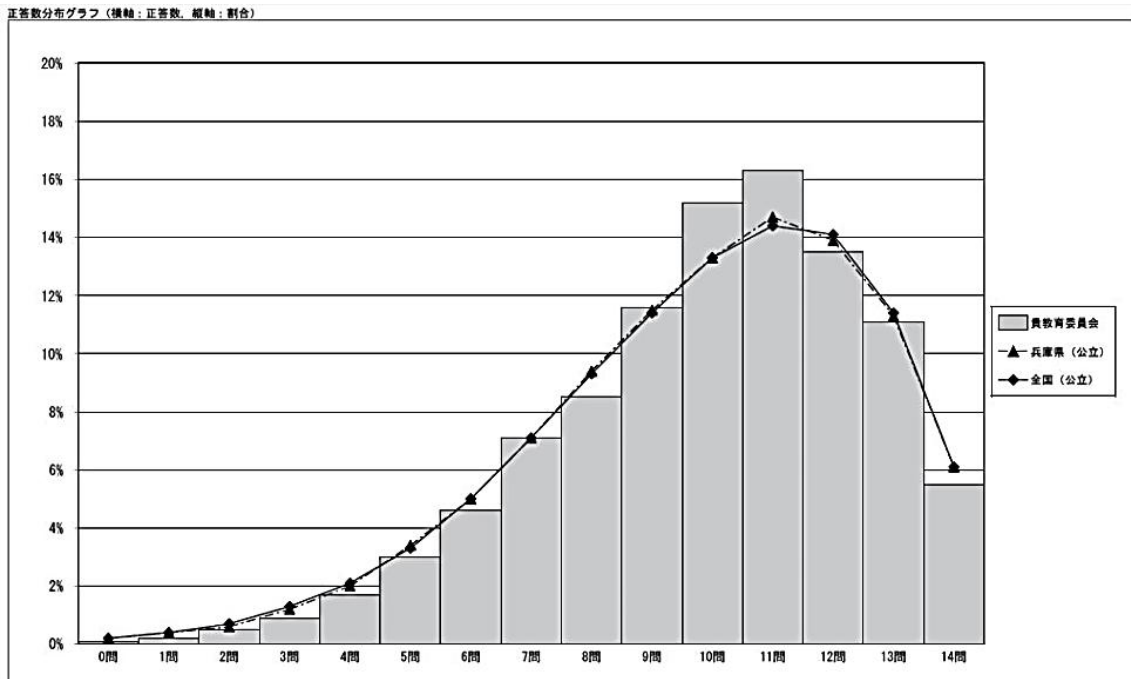
①教科全体の平均正答率



川西市平均正答率を兵庫県、全国と比較すると、
国語A（知識）は70.8%（県比+0.7、全国比+0.8）
国語B（活用）は65.1%（県比-0.4、全国比-0.3）である。
したがって、国語A、Bとも 川西市小学生の学力は『概ね良好』であるといえる。

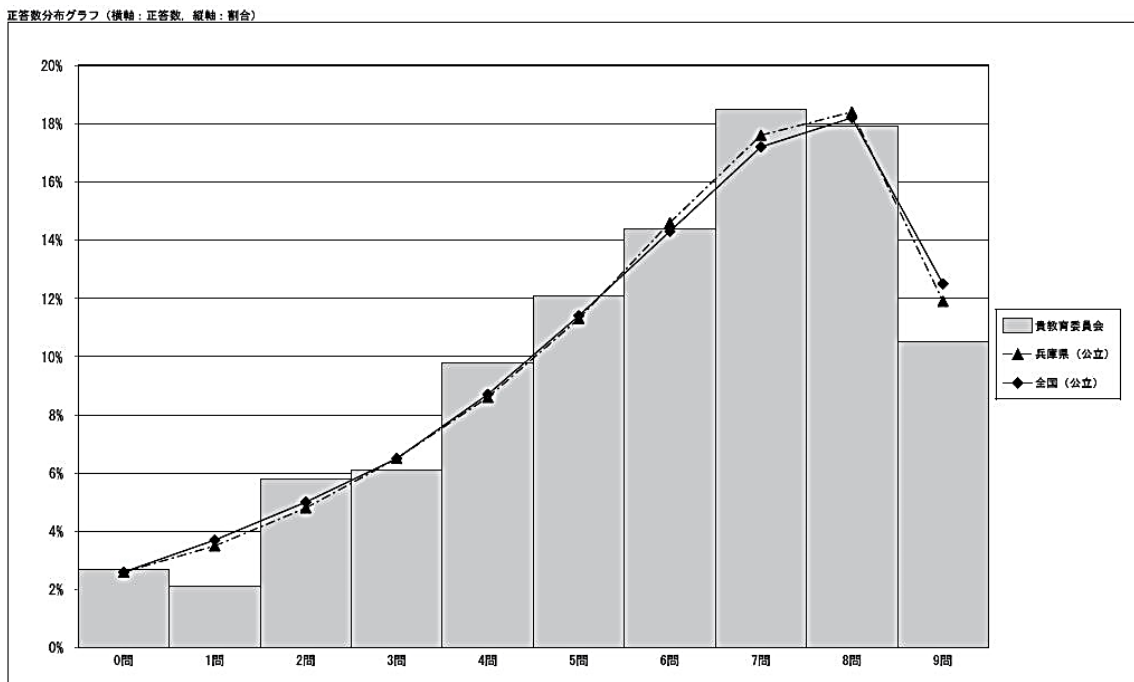
②度数分布図

【国語 A】



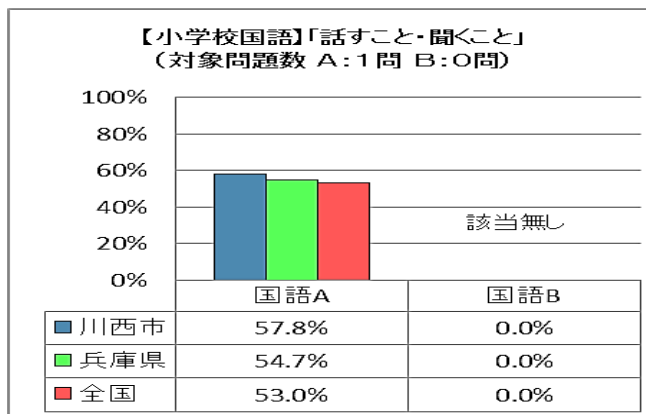
	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
川西市教育委員会	1,384	9.9 / 14	70.8	10.0	2.6
兵庫県 (公立)	48,499	9.8 / 14	70.1	10.0	2.8
全国 (公立)	1,061,264	9.8 / 14	70.0	10.0	2.8

【国語 B】



	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
川西市教育委員会	1,384	5.9 / 9	65.1	6.0	2.3
兵庫県 (公立)	48,496	5.9 / 9	65.5	6.0	2.4
全国 (公立)	1,061,093	5.9 / 9	65.4	6.0	2.4

③領域・事項別の平均正答率



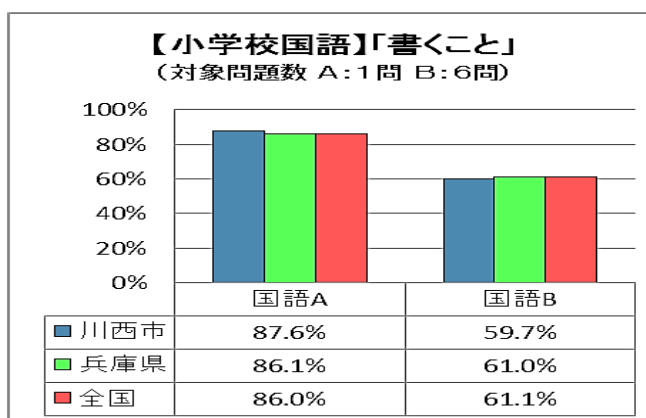
<話すこと・聞くこと>

□ (A) 話の内容に対する聞き方を工夫することができる

川西市平均正答率は57.8%（全国比+4.8ポイント）である。昨年度、川西市は全国平均正答率を4.1ポイント下回っていたため、今年度は改善の傾向が見られる。

解答類型によると、「提案の内容と自分たちの様子とを重ね合わせて聞くことができない」、「提案の理由に着目していくことができない」といった部分で課題がみられる。

今後の指導改善のポイントとして、「聞くことへの能力は、学習した知識・技能を繰り返し用いたり、実際の生活場面において使いこなす機会を多くもったりすること」によって身に付けることができるため、話すこと・聞くことの学習の機会を意図的・計画的に年間指導計画に位置付けることが大切である。



<書くこと>

□ (A) 具体的な事例を挙げて説明する文章を書くことができる

川西市平均正答率は87.6%（全国比+1.6ポイント）であり、説明する文章の書き方の工夫として、具体的な事例を挙げて書くことについては、相当数の児童が理解できている。

■ (B) 目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書くことができる

取材した内容を新聞記事として書く際、事実と感想・意見などを区別するとともに、目的や意図に応じ伝えたい内容が十分に分かるように、取材した複数の内容を整理して書くことが必要である。そのため、読み手に伝えたいことを明確にしたうえで、自分の調べた内容や関係者に取材した事柄の中か

ら取捨選択し、伝えたいことが読み手に伝わるように、整理して記事を書く指導が大切である。

目的に応じ、取材した複数の内容を整理して記事を書くための学習活動例として、

- ①インタビューの話の内容などを見直す
- ②写真資料等で活動の様子などを確かめる
- ③参加者の意見や感想を聞く

などが挙げられる。

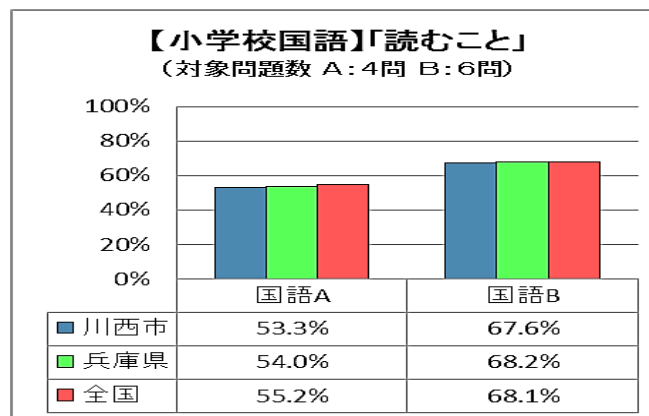
■ (B) **文章と図を関係付けて、自分の考えを書くことができる**

文章と図表やグラフなどを関係付けて、自分の考えをまとめるためには、図表やグラフなどが添えられた文章を提示し、それらを関係付けて読んだり、自分の考えを書いたりする指導を意図的に行うことが必要である。その際、

- ①図表やグラフの内容が文章のどこに取り上げられているのか
- ②図表やグラフはどの程度詳しく、あるいは簡潔に内容を説明しているのか
- ③図表やグラフがあることによって文章がどのように分かりやすくなっているのか

など、文章と図表やグラフなどとの関係やその効果を捉えることができるように指導することが大切である。

また、図表やグラフを効果的に用いて説明的な文章を書く学習活動において、図表やグラフなどを引用した資料名を記述したり、文章の最後に参考にした資料名などを明記したりすることなど、他の資料から必要な内容を引用するときの注意点について指導することも大切である。



<読むこと>

■ (A) **新聞のコラムの中で筆者が引用している言葉を書き抜くことができる**

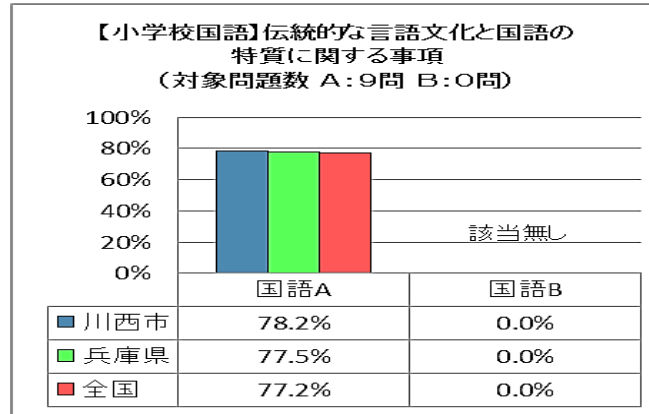
新聞のコラムを用いて表現の工夫を捉える設問、解答類型によると、正答の児童の割合より誤答の児童の割合の方が高くなっている。「引用」の理解に関して、引用した場合はかぎ(「」)で括ることは捉えているが、「自分の思いや考えを根拠づける」ものとして有効であるなど、引用の必要性や効果を考えた上で引用している言葉を判断するというところに課題がみられる。

■ (B) **登場人物の気持ちの変化を想像しながら、音読する際の工夫とその理由を書くことができる**

音読の工夫については、声の大きさや質、読む速さ、間の取り方などの観点を具体的に示し、児童が繰り返し音読することを通じて、それぞれの観点到気付かせることが大切である。効果的な学習活動としては、

- ①児童が何度も繰り返し音読しながら、自分の感じ方にぴったり合う音読の仕方を身に付ける

- ②児童同士で読み合い聞き比べながら、互いに助言をし合い、自分の音読に活かす
 - ③並行読書により、自分が紹介したい作品を選び、自分が感じたことを音読で表し、友達や他学年の児童に紹介する
- などが挙げられる。



<伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項>

□ (A) 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読んだり書いたりすることができる

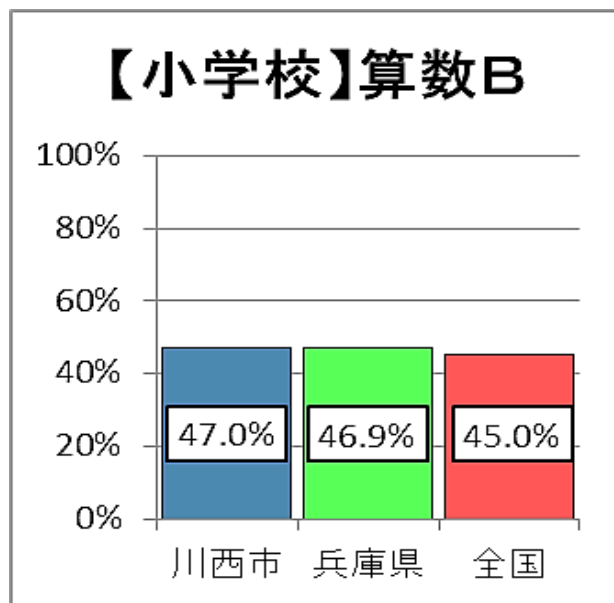
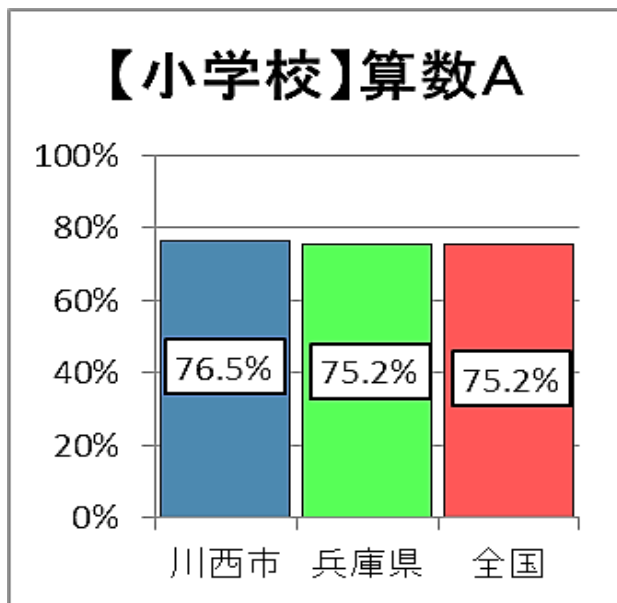
当該学年までに配当されている漢字を読むこと、また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書くことや文中で使うことにおいては概ね理解している。

■ (A) 文の中における主語を捉えることができる

文の中における主語を捉える設問、「ぼくの、妹の、誕生日は、五月二日です。」、主語は「誕生日は、」になるが、「ぼくの」や「妹の」などの、人を表す語句を主語として捉えている児童が全体の2割近くいる。このことから、文や文章を理解したり表現したりするときに、主語と述語との照応関係について強く意識できるように指導することが必要である。また、修飾語と被修飾語との関係をはっきりさせるとともに、「だれが」「いつ」「どこで」「なにを」「どのように」「なぜ」などという文の構成について、初歩的な理解ができるように学習することが大切である。

調査結果 小学校算数

①教科全体の平均正答率



川西市平均正答率を兵庫県、全国と比較すると

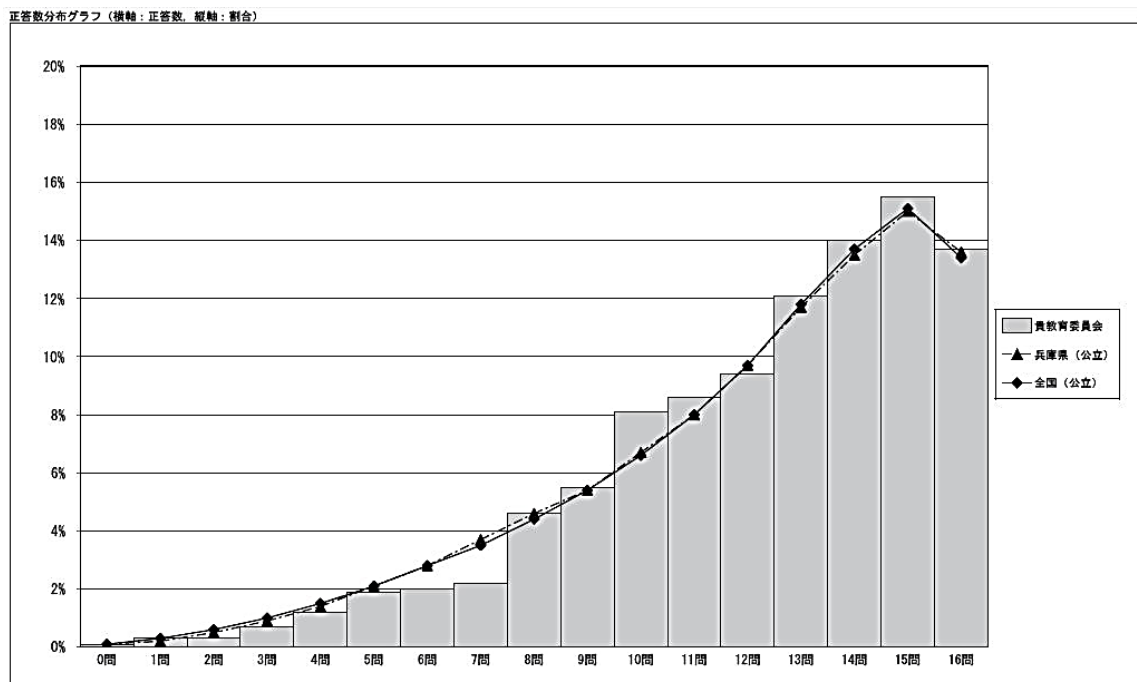
算数A（知識）は 76.5%（兵庫県比+1.3、全国比+1.3）

算数B（活用）は 47.0%（兵庫県比+0.1、全国比+2.0）

したがって、算数A、Bとも 川西市小学生の学力は『良好』であるといえる。

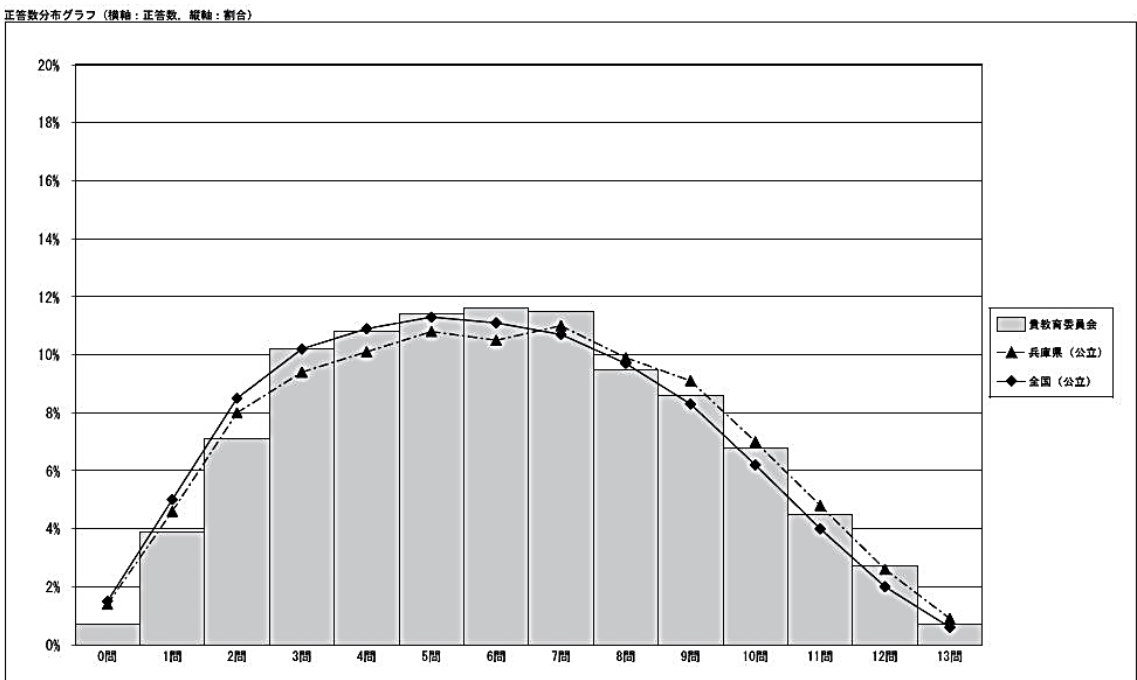
②度数分布図

【算数 A】



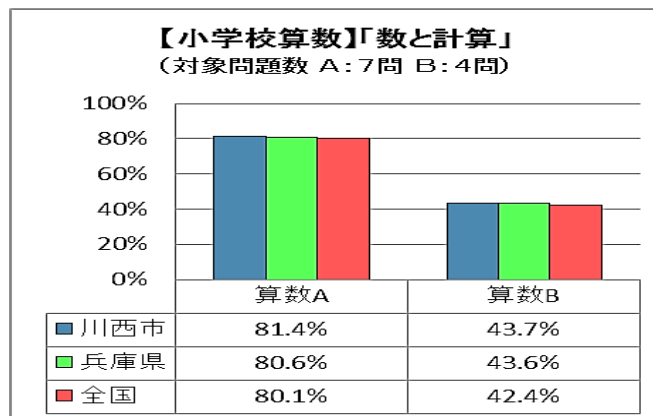
	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
川西市教育委員会	1,384	12.2 / 16	76.5	13.0	3.2
兵庫県 (公立)	48,502	12.0 / 16	75.2	13.0	3.4
全国 (公立)	1,061,301	12.0 / 16	75.2	13.0	3.4

【算数 B】



	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
川西市教育委員会	1,385	6.1 / 13	47.0	6.0	2.9
兵庫県 (公立)	48,511	6.1 / 13	46.9	6.0	3.0
全国 (公立)	1,061,063	5.9 / 13	45.0	6.0	3.0

③領域・事項別の平均正答率



<数と計算>

□ (A) **整数・小数・分数の計算をすることができる**

繰り上がりのある2位数の加法 ($28+72$)、異分母の分数の減法 ($5/9-1/4$)、除数が整数である場合の分数の除法 ($5/6\div 7$) は相当数の児童ができている。

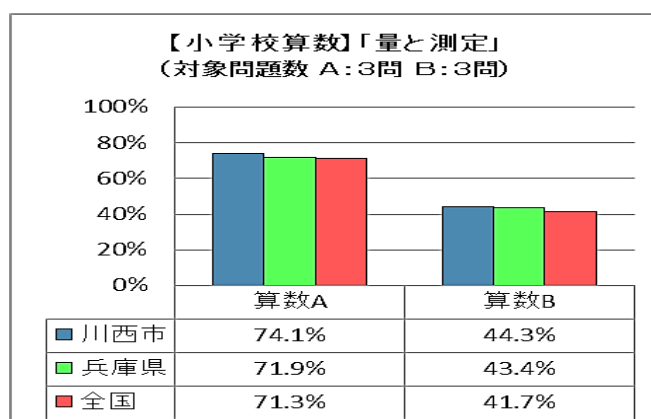
■ (A) **小数の減法について、計算の結果のおよその大きさを捉えることができる**

8. $9-0.78$ の差の概算を求める設問の誤答割合は 29.5%、6. $79-0.8$ を 6.71 と誤答した割合は 15.6% であり、位をそろえて計算することへの確実な理解や大きな誤りを防ぐために計算の結果を見積もる習慣を身に付けることが大切である。

■ (B) **概数を用いた見積もりの結果とそれに基づく判断を理解し、求めた解答の理由を、言葉と数を用いて記述することができる**

目的に応じた見積もりの学習においては、

- ①見積もり方を選択して概算する
 - ②得られた結果と実際の数を比較して分かることを考察する活動
- これらの活動を関連付けて考えることが大切である。



<量と測定>

□ (A) **日常生活の中で必要となる時刻を求めることができる**

日常生活の中で必要となる時刻や時間を求める設問について、川西市平均正答率は 79.8% (全国比 +5.0 ポイント) である。条件が増えても順序よく時刻や時間を求めることは概ね理解している。

■ (A) **180° よりも大きい角の大きさを求めることができる**

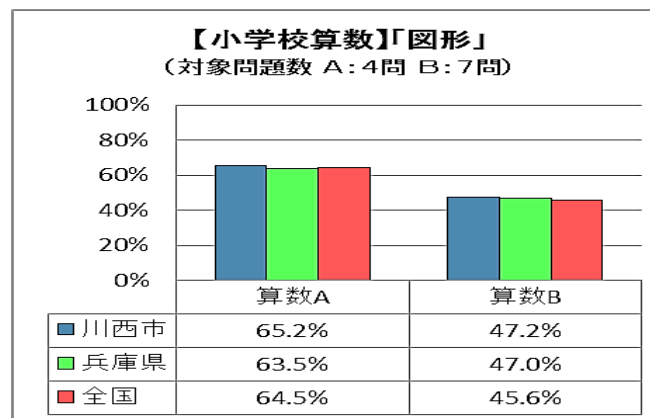
角の測定においては、角の大きさの見当をつけながら、回転の大きさが角の大きさであることを繰り返し確認することが大切である。指導にあたっては、

- ①角の大きさの見当をつける
- ②分度器を用いて測定する
- ③見当付けの結果と測定の結果について振り返って確かめる

といった学習活動が効果的である。

■ (B) **図形を構成する要素に着目して、求めた解答の理由を、言葉や数、記号を用いて記述することができる**

いずれの設問も全国平均正答率を上回っているが、図形を構成する要素に着目して、言葉や数、記号を用いて根拠となる事柄を過不足なく説明することは、引き続き指導の充実が必要である。どのように解答を導きだしたかという理由を説明する際、たとえば、根拠が不足した説明を示し、「もっと詳しく言えませんか」と発問するなど、解決のために必要な根拠を満たす説明となっているかを話し合う学習活動を普段から取り入れることが有効である。



<図形>

□ (A) **図形の性質を基に、角の大きさや辺の長さを求めることができる**

図形の性質を基に、角の大きさや辺の長さを求めることは概ね理解している。

■ (A) **二等辺三角形を、円の性質と関連付けて捉えることができる**

円と三角形など複数の組み合わせられた図形を用いて、図形の性質や、角の大きさ・辺の長さなどを正しく求めるためには、組み合わせられた図形がどのような図形で構成されているのか、どのような図形の性質が用いられているかを見い出すことが大切である。

- ①組み合わせられた図形がどのような図形で構成されているか
- ②どのような図形の性質が用いられているか

このような学習活動を通して、図形の性質を見つけていくことが大切である。

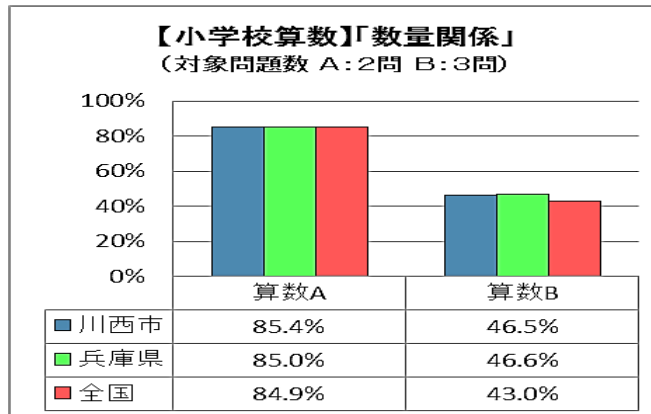
■ (B) **図形の性質を言葉と記号を用いて記述することができる**

ほとんどの設問で全国平均正答率を上回っているが、図形の性質を基に、根拠となる事柄を過不足なく説明することは、引き続き指導の充実が必要である。思考・判断したことを的確に表現するためには、

- ①記述問題においては、何をどの程度、思考・判断したことを表現させるのか

②各学年に応じた算数的な表現を意識させているか

このようなことを意識した指導が必要である。ノート指導や発達段階に応じた言語活動の充実、また三角形と円の性質を関連付けて理解するなど、図形と図形を関連付けて、図形の持つ特徴を捉えるなど、系統的に算数的な思考力・表現力を高める指導計画が大切である。



<数量関係>

(A) グラフに表されている事柄を読み取ることができる

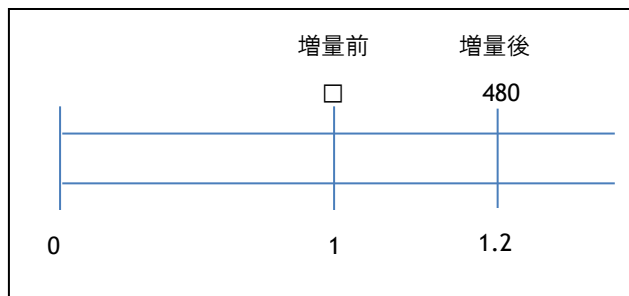
(A) 式に表現された数量の関係を図と関連付けて理解することができる

式に表されたことを図と関連付ける、グラフに表されてる事柄を読み取ることは理解している。

(B) 示された情報から基準量を求める場面と捉え、比較量と割合から基準量を求めることができる

設問 2 (2) の結果から、示された情報から基準量を求める場面を捉え、比較量と割合から基準量

を求めることに課題がみられる。解答類型によると、比較量と割合から基準量を求めるという問題について、川西市平均正答率が 17.7%であるのに対して、誤って増量後の 80%に当たる量を求める解答 (480×0.8) の割合が 34.6%、また、問題に示された量と割合を乗除の式に表し $480 \div 20$ や 480×0.2 と解答した割合が 27.0%であった。図や数

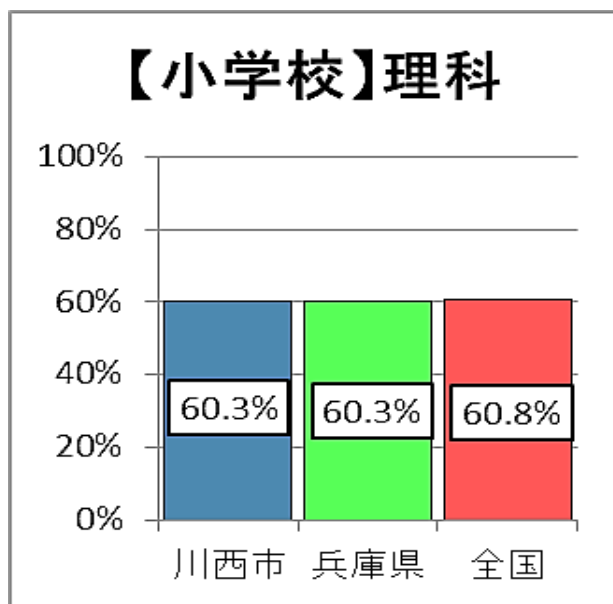


直線に表すことなどを通して「比較量である増量後の量は、基準量となる増量前の量の 120%に当たる。」

「□の 1.2 倍が 480 だから、式は $\square \times 1.2 = 480$ になる。」というように数量の関係を整理し、児童にとって考えやすい数で数量の関係を捉えることが大切である。

調査結果 小学校理科

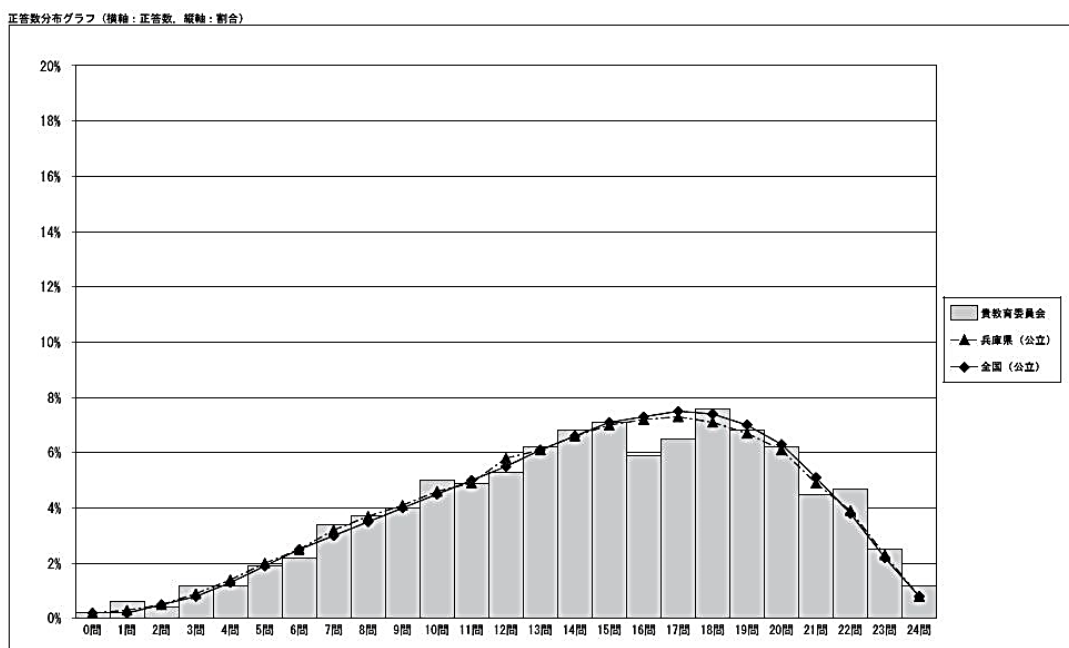
①教科全体の平均正答率



川西市平均正答率を兵庫県、全国と比較すると、
 理科（知識・活用）は、60.3%（兵庫県比±0、全国比-0.5）である。
 したがって、理科は 川西市小学生の学力は『概ね良好』 であるといえる。

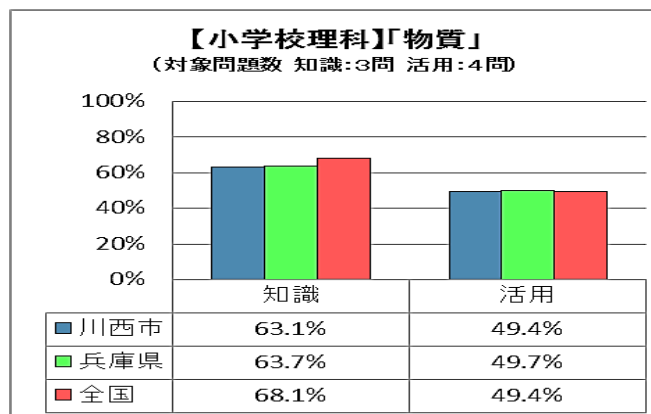
②度数分布図

【理科】



	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
川西市教育委員会	1,387	14.5 / 24	60.3	15.0	5.2
兵庫県（公立）	48,505	14.5 / 24	60.3	15.0	5.1
全国（公立）	1,060,792	14.6 / 24	60.8	15.0	5.0

③領域・事項別の平均正答率



<物質>

□ (知識) **水蒸気は水が気体になったものであることを理解している**

水蒸気は水が気体になったものであることを問う設問について、川西市平均正答率は 83.6% (全国比 +1.7 ポイント) であり、多くの児童が理解できている。

■ (知識) **メスシリンダーの名称を理解し、メスシリンダーで一定量の水をはかり取る適切な使い方を身に付けている**

メスシリンダーの名称を理解し、メスシリンダーで一定量の水をはかり取る適切な扱い方を身に付けているかどうかを問う設問で課題がある。メスシリンダーの名称を問う設問の全国平均正答率 70.7% に対し川西市平均正答率 56.7% であった。改善にあたっては、下記の学習活動の充実が大切である。

①計量カップやビーカーより詳細に測定できる器具の必要感をもたせること

②実験器具の名称の指導とあわせて、実際に器具を操作する活動の場を一人ひとりに保障すること

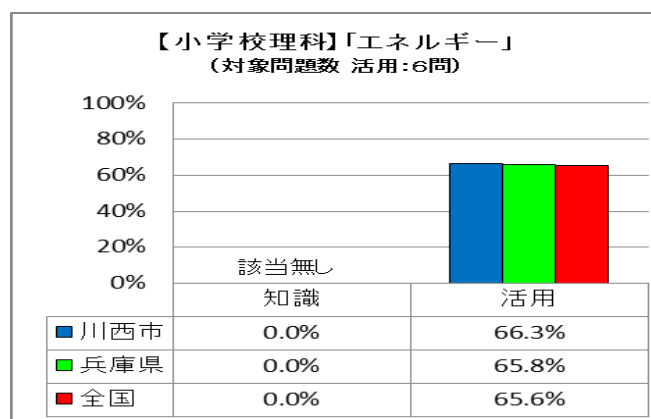
■ (活用) **グラフを基に考察し、その内容を記述できる**

水の温度と砂糖が水に溶ける量との関係のグラフから、水の温度が下がったときに出てくる砂糖の量を選び、選んだわけを書く設問で課題がみられる。物が水に溶ける量は水の温度によって違うことは理解できていることから、冷やすことで析出する砂糖の量と、その温度で溶ける砂糖の量を区別できるようにする必要がある。あわせて、

①実験結果から得られたデータを、表やグラフに書く

②表やグラフをもとに、実験結果を文章で書き表す

このような学習活動を継続して行うことも重要である。



<エネルギー>

□（活用）電磁石の強さは、導線の巻数や電流の強さによって変わることを理解している

導線の巻数の異なる電磁石の強さを比べ、2つの電磁石の強さを等しくする方法を問う設問について、川西市平均正答率は77.4%（全国比+4.7ポイント）であり、概ね理解を示している。

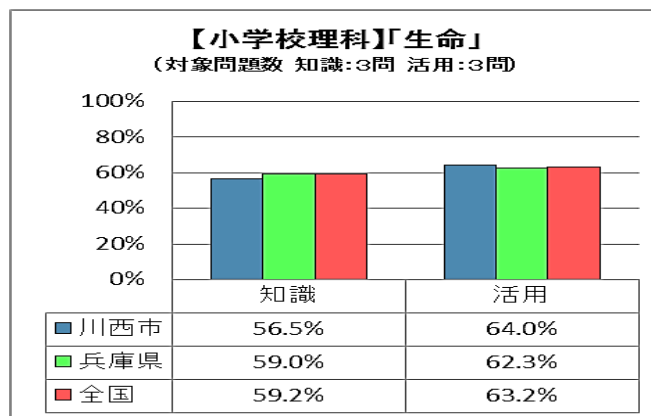
■（活用）電磁石と磁石の同極が退け合う性質を振り子が左右に等しく振れる仕組みに適用することができる

電磁石と磁石の同極が退け合う性質を、振り子が左右に等しく振れる仕組みに適用する設問に、課題がみられる。

①磁石の異極は引き合い、同極は避け合うこと

②電流の流れているコイルは、電流の向きが変わると、電磁石の極が変わること

以上のような、電磁石と磁石の性質について、乾電池の数やつなぎ方など、条件をかえて点検するといった学習過程を通じて理解することが大切である。



<生命>

■（知識）メダカの雌雄を見分ける方法を理解している

メダカの雌雄を見分けるためには、例えば、「メダカの卵が産まれるようにしたい」といった活動をきっかけとして

①メダカの雌雄を見分けることに目的意識をもつ

②観察や資料などから雌雄を形状の違いで見分ける

などの学習活動が効果的であると考えられる。

■（知識）顕微鏡の名称を理解し、適切な操作方法を身に付けている

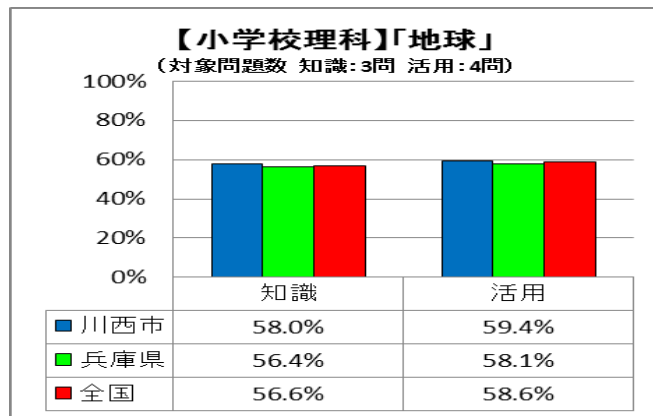
顕微鏡の操作に関する問題では、顕微鏡の焦点を合わせる操作として、「調節ねじを回す（正答）」37.0%に対して、「対物レンズをちがう倍率のものにする（誤答）」36.2%、「鏡の向きを調節する（誤答）」22.9%であった。顕微鏡を使うと、肉眼や虫眼鏡ではよく見えないものも、詳しく観察することができるという器具への必要感をもたせること、また、例えば、限られた顕微鏡の台数の中でも、観察する機会を増やしたり、観察対象物を複数にしたりして、一人ひとりが顕微鏡を操作できるようにすることが重要である。また、光量の確保や焦点の調節などが最良な状態になっていないこともあるので、教員や児童同士が互いに見えている様子を確認し合うことも大切である。

■（活用）学習を通して獲得した知識を実際の自然や日常生活に当てはめて考えることができる

インゲンマメとヒマワリの成長の様子を示したグラフから、インゲンマメとヒマワリの成長や日光の

当たり方に適した栽培場所を選び、選んだわけを記述することに課題がみられる。

植物の成長の様子を示したグラフから草丈の変化について捉え、日光を遮る物がなく、両方に日光が当たる栽培場所を判断すること、また、たとえば、アサガオの栽培経験から植物を育てる際には、鉢を日光がよく当たる場所に置くようにしたことを想起させるなど、植物の成長の学習を通して獲得した知識を、実際の自然や日常生活の事物・現象に当てはめて考えることが大切である。



<地球>

■ (知識) 月は1日のうち時刻によって形は変わらないが、位置が変わることを理解することができる
星座の動きを捉えるための適切な記録方法を身に付けている

月は1日のうち時刻によって形は変わらないが、位置が変わることを捉えるためには、時間ごとに月が見える方位や高さ、見える形を観察し、月の動きと時間の経過を関連付けて考えるようにすることが大切である。また、星座の動きと時間の経過との関係を捉えるためには、適切な記録方法として、定点観察の技能と記録の仕方を習得することが大切である。

例えば、日中の月を観察する機会を通して、観察する際に立つ位置を一定にし、調べる時間の間隔を決めて観察するといった定点観察の方法や、基準となる目印を決めて常にその目印とともに月の位置を記録するといった記録の仕方について話し合い、適切な観察や記録方法を捉えるなどの学習活動が考えられる。

□ (活用) 水が水蒸気になる現象について、科学的な言葉や概念を理解することができる

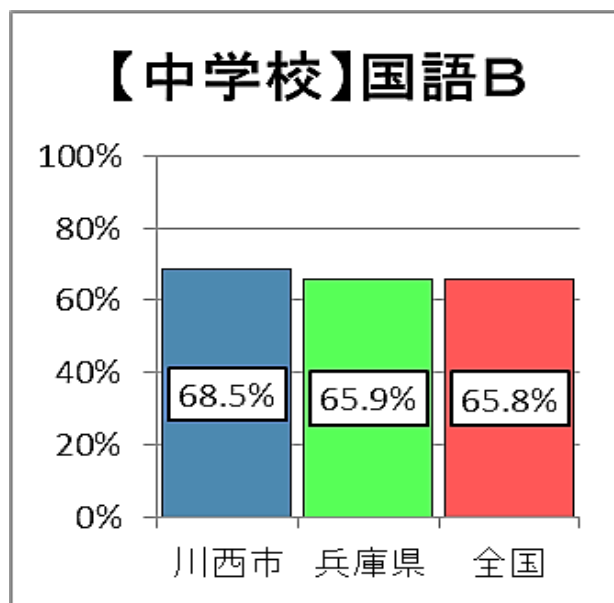
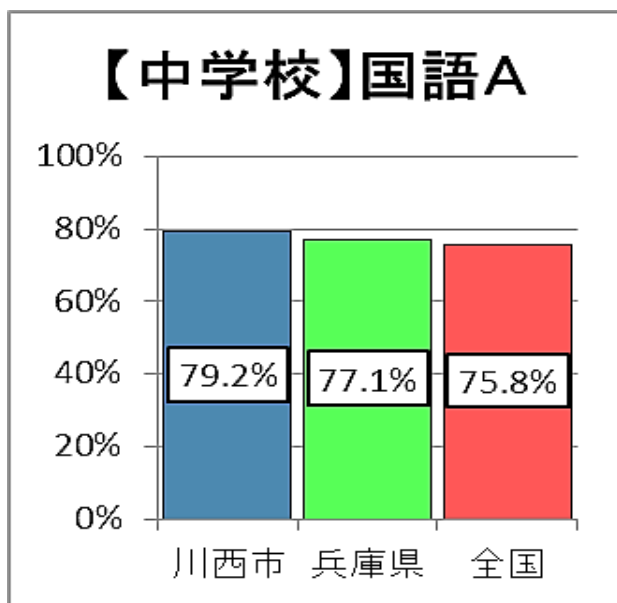
打ち水の効果について、グラフを基に地面の様子と気温の変化を関連付けることを問う設問について、川西市平均正答率は86.5%であり、多くの児童が理解を示している。

■ (活用) 方位を判断するために、観察した事実と関連付けながら情報を考察することができる

東西南北の位置関係を整理することが大切である。たとえば、月や星の見える方位を判断するためには、日頃から生活している場所での方位を捉えておき、観察時には方位磁針を用いて方位を正確に調べた上で観察するといった学習活動が効果的である。

調査結果 中学校国語

①教科全体の平均正答率



川西市平均正答率を兵庫県、全国と比較すると、

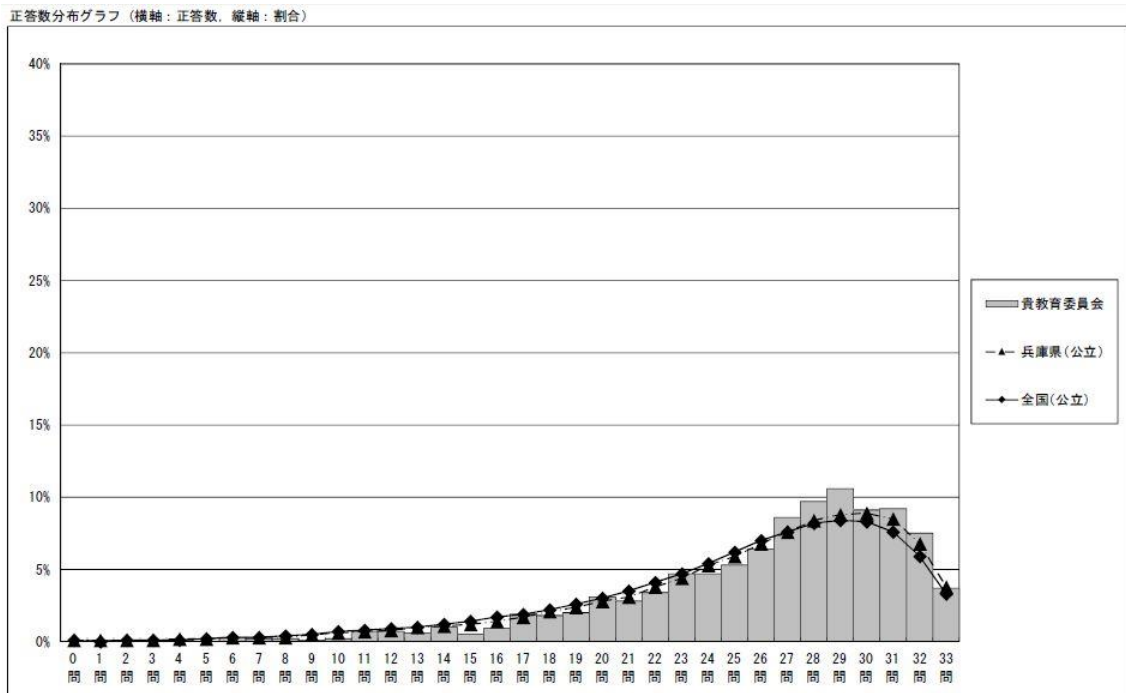
国語A（知識）は 79.2%（兵庫県比+2.1、全国比+3.4）

国語B（活用）は 68.5%（兵庫県比+2.6、全国比+2.7）

したがって、国語A、Bとも 川西市中学生の学力は『良好』であるといえる。

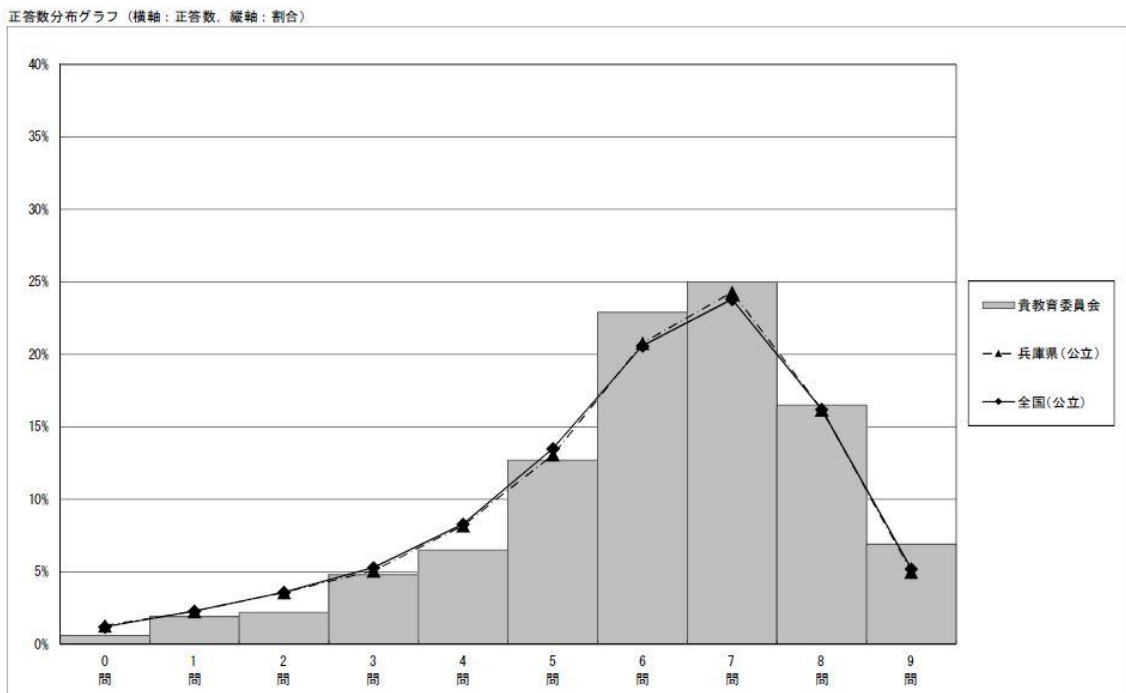
②度数分布図

【国語 A】



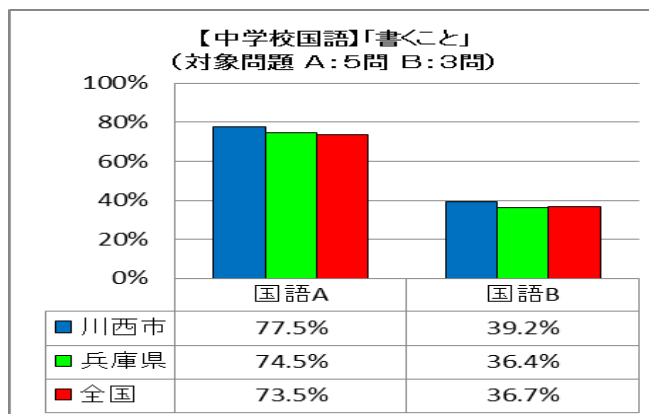
	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
川西市教育委員会	1,367	26.2 / 33	79.2	27.0	5.3
兵庫県 (公立)	45,815	25.4 / 33	77.1	27.0	5.9
全国 (公立)	1,016,451	25.0 / 33	75.8	26.0	6.0

【国語 B】



	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
川西市教育委員会	1,367	6.2 / 9	68.5	6.0	1.8
兵庫県 (公立)	45,824	5.9 / 9	65.9	6.0	2.0
全国 (公立)	1,016,575	5.9 / 9	65.8	6.0	2.0

③領域・事項別の平均正答率



<話すこと・聞くこと>

□ (A) 必要に応じて質問しながら聞き取ることができる

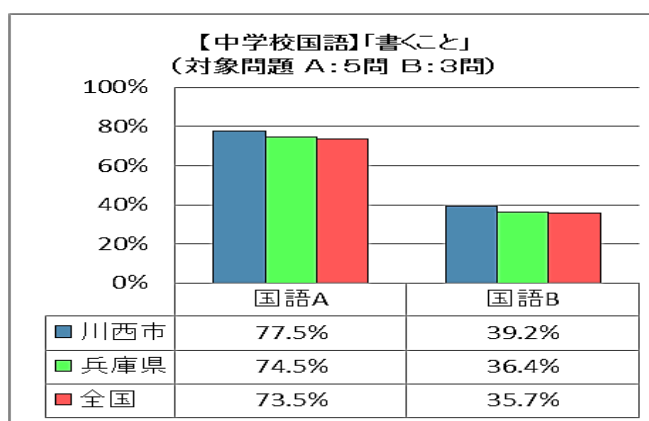
国語A大問8(一)(二)は「必要に応じて質問しながら聞き取る」が問題の趣旨となっている。今年度調査対象生徒が平成24年度、小学校6年生時(抽出調査)に受けた調査では、全国的に課題があるとされていた内容である。今回、8(一)の川西市平均正答率は86.7%(全国比+2.1ポイント)、8(二)の川西市平均正答率79.2%(全国比+3.1ポイント)であり、川西市は、「必要に応じて質問しながら聞き取ること」について、改善がみられた全国より上回っている結果である。

□ (B) 効果的な資料を作成し、活用して話すことができる

スピーチやプレゼンテーションをする際、フリップ等の資料を使うと、より分かりやすく伝えることができる。資料を作成する際は、

- ①イラストや写真などを用いて視覚的に捉えられるようにする
- ②伝えたい内容を短い言葉でまとめて要点を捉えやすくする

など、資料作成のポイントを確認することが大切である。



<書くこと>

□ (A) 書いた文章を読み返し、語句の選び方や使い方を工夫して、読みやすく分かりやすい文章にすることができる

文章を推敲する際、自分の意見が読み手にどのように伝わるかという観点で、表記や語句の用法を確かめるように指導することが引き続き大切である。

■ (B) 複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書く

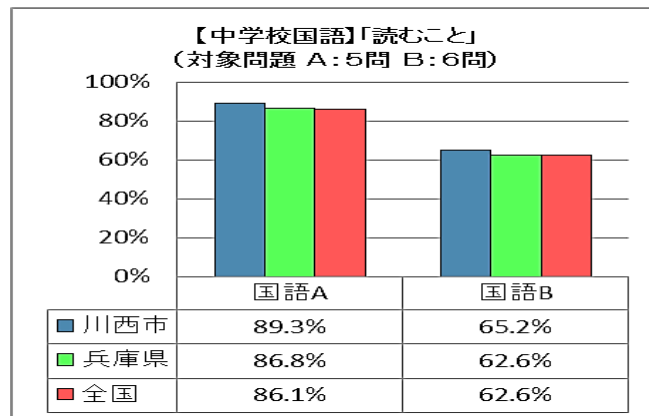
根拠を明確にして自分の考えを書く

川西市平均正答率は全国平均正答率を全て上回っているが、読み取った事実を基にした根拠を明確にして自分の考えを書くことに課題が見られる。こうした書く力の育成は、引き続き必要である。

多様な情報から自分の考えをもつには、

- ① 複数の本や資料から得た情報を自分と結び付けて考える
- ② 感じたことや考えたことを他の人に伝える文章を書く（伝えるという問題意識をもって文書を書く）
- ③ 自分の考えを深めるために学校図書館やインターネットを利用し、主体的に情報をさがす

などの学習活動が挙げられる。



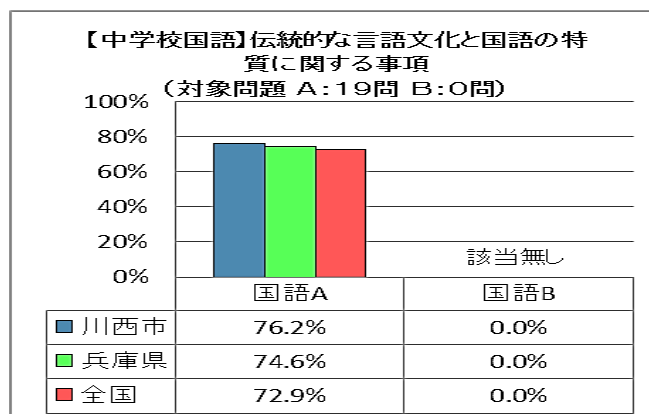
<読むこと>

□ (A) 登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解することができる

川西市平均正答率は89.3%（全国比+3.2ポイント）と9割近くになっており、多くの生徒が理解している。

□ (B) 表現の工夫について自分の考えを持つことができる

学習指導要領【第1学年 C 読むこと】に、「文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読みわけ、目的や必要に応じて要約したり要旨を捉えたりする」と文章の解釈に関する力の育成が示されている。文章の要旨を捉える際には、論の展開の中心になる部分と、それを支える例示や引用などの付加的な部分とを読み分けて内容を理解することが必要である。



<伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項>

□ (A) 文脈に即して漢字の読み書きができる

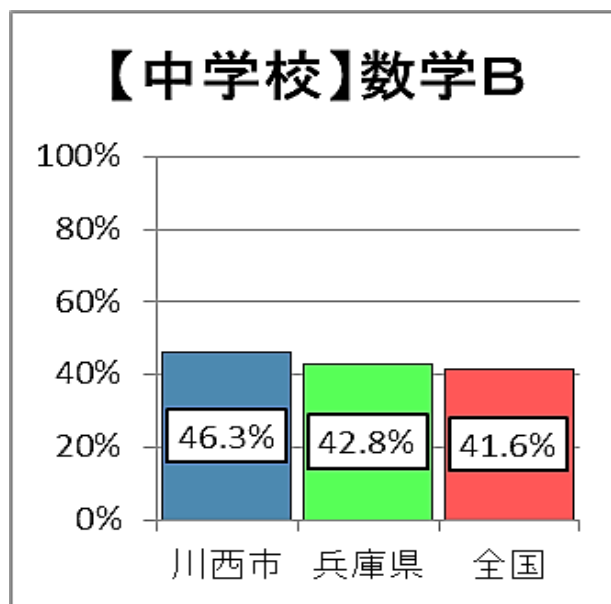
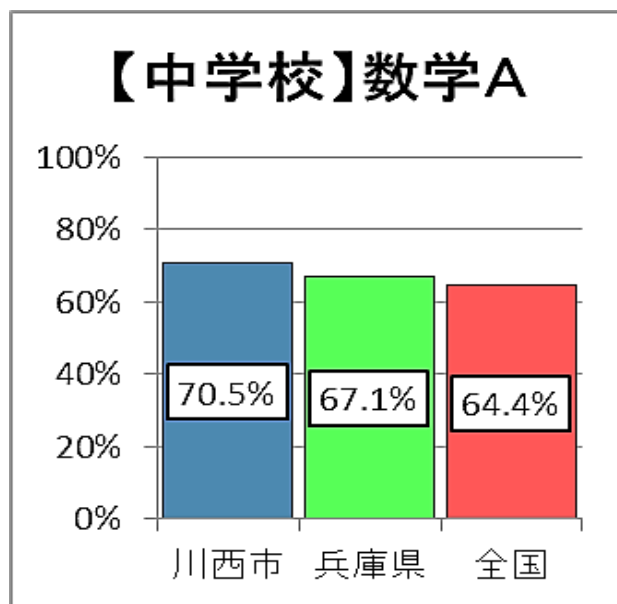
文脈に即して漢字を正しく書く・読むことは相当数の生徒が理解している。語句の意味を理解することに関しては、一部日常生活で使うことの少ない語句の理解に課題が見られた。「口火」は20年度調査でも出題されており、20年度川西市平均正答率50.8%、27年度川西市平均正答率58.2%である。「たなびく」も24年度調査に出題されており、24年度川西市平均正答率47.8%、27年度川西市平均正答率47.8%と同じ平均正答率となっている。

■ (A) 手紙の書き方を理解して書くことができる

また、基本的な手紙の書き方についても課題がみられた。手紙の後付けの書き方についての川西市平均正答率は54.9%に留まっている。相手の名前を自分の名前や日付より高い位置に書いて相手への敬意を表すといった手紙の基本的な形式に込められた意味も理解することが必要である。

調査結果 中学校数学

①教科全体の平均正答率



川西市平均正答率を兵庫県、全国と比較すると

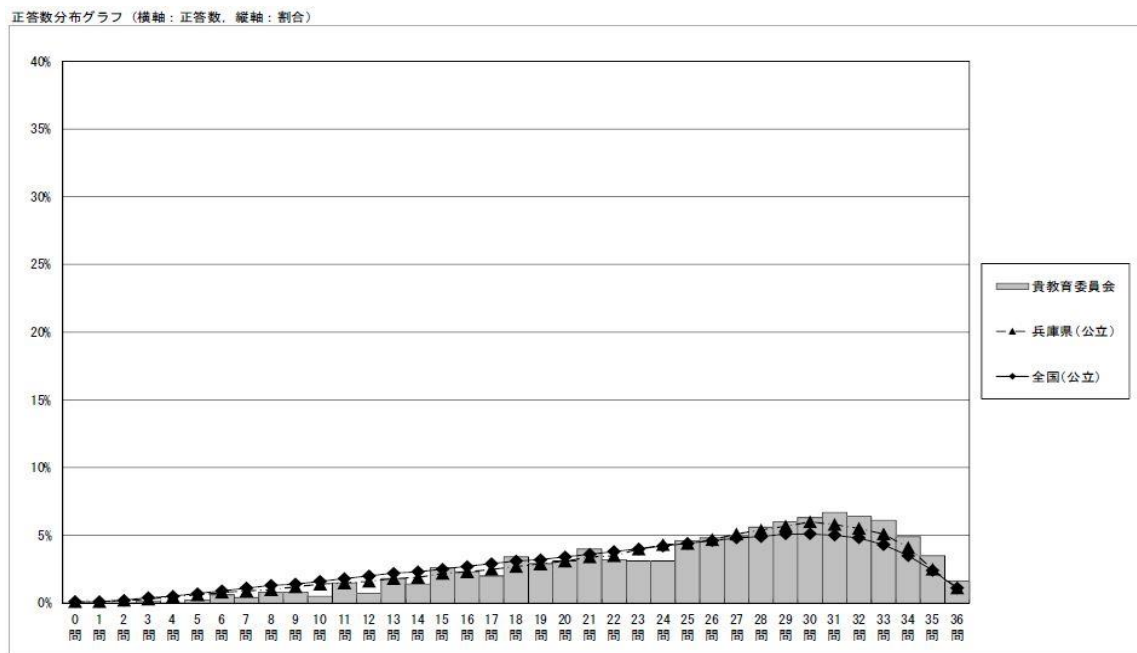
数学A（知識）は70.5%（兵庫県比+3.4、全国比+6.1）

数学B（活用）は46.3%（兵庫県比+3.5、全国比+4.7）である。

したがって、数学A、Bとも 川西市中学生の学力は『良好』であるといえる。

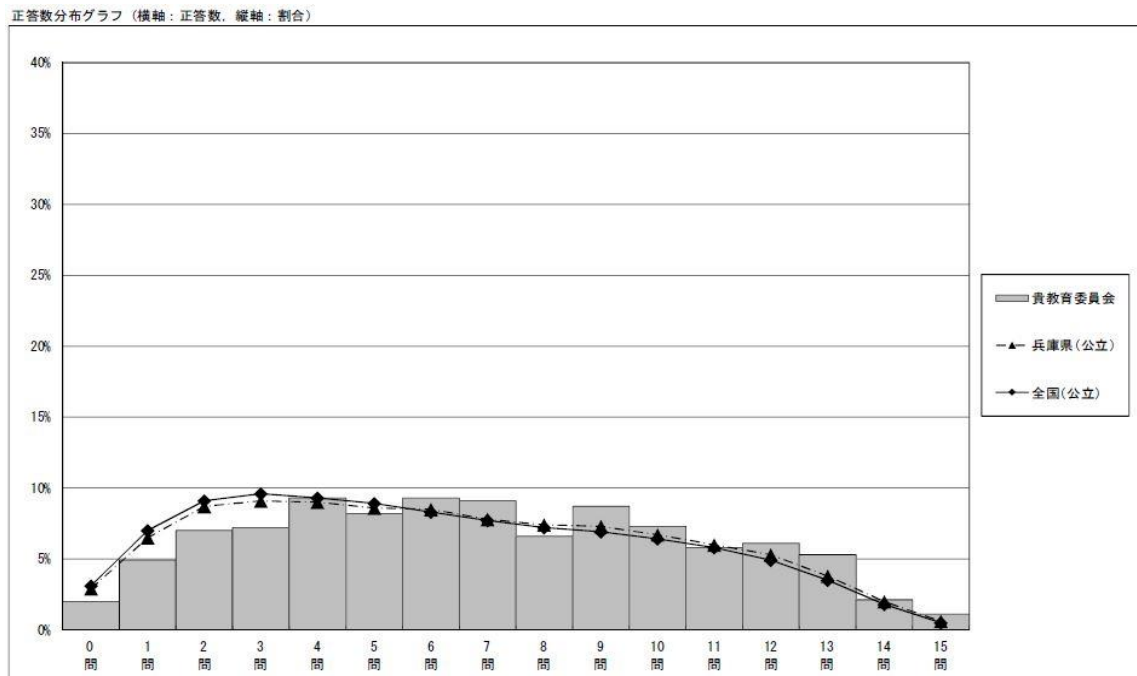
②度数分布図

【数学A】



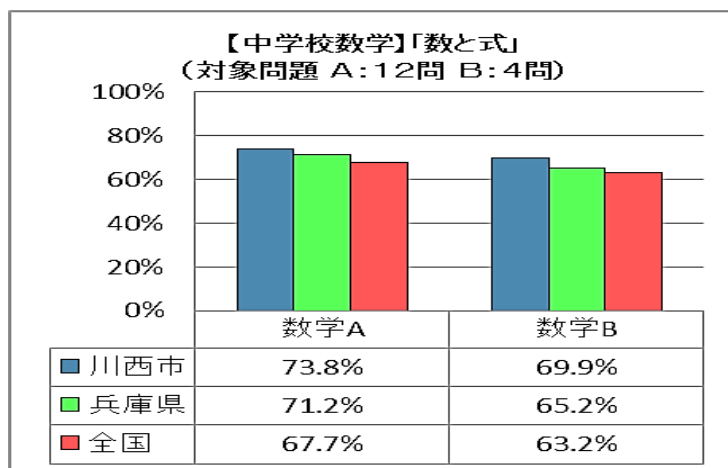
	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
川西市教育委員会	1,367	25.4 / 36	70.5	27.0	7.1
兵庫県 (公立)	45,826	24.2 / 36	67.1	26.0	7.8
全国 (公立)	1,016,737	23.2 / 36	64.4	24.0	8.0

【数学B】



	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
川西市教育委員会	1,368	6.9 / 15	46.3	7.0	3.8
兵庫県 (公立)	45,834	6.4 / 15	42.8	6.0	3.8
全国 (公立)	1,016,548	6.2 / 15	41.6	6.0	3.8

③領域・事項別の平均正答率



<数と式>

□ (A) 加減乗除を含む正の数と負の数の計算をすることができる

加減乗除を含む正と負の数の計算【例… $12-2 \times (-6)$ 】や一次式の減法【例… $5x-x$ 】は、多くの生徒が理解している。

■ (B) 事柄が成り立つ理由を、構想をたてて説明することができる

全国平均正答率を上回っているが、下記の3点に関しては、引き続き指導の充実が求められる。

①数量の関係を捉え文字式に表すこと

【例…赤いテープの長さが a cmで、白いテープの長さの $\frac{3}{5}$ 倍のとき、白いテープの長さを a を用いた式で表す。川西市平均正答率 29.8% 全国平均正答率 22.2%】

数量関係をつかむためには、まず、簡単な整数など分かりやすい数に置き換えて数量関係の構図を把握する。次に、問題文で用いられる数の場合を考える。こうした数量関係をつかむ手立てを学ぶことが、効果的である。

②具体的な事象における数量の関係を捉え、連立二元一次方程式をつくること

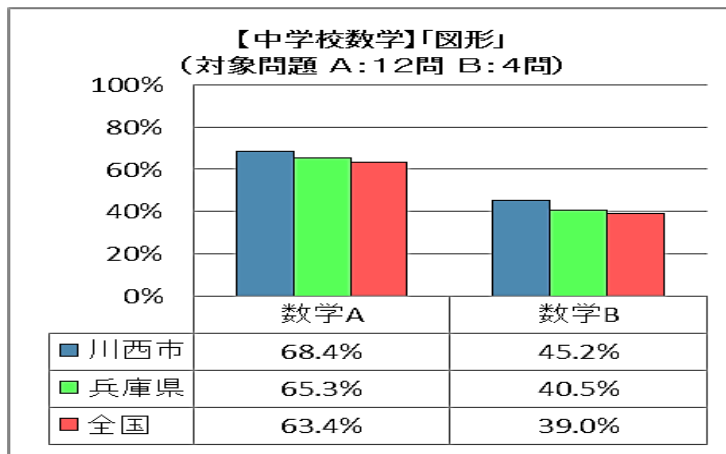
【例…ある中学校の今年度の入学者数は男女合わせて 223 人で、昨年度の入学者数より 3 人増えました。男子は昨年度より 5%増え、女子は昨年度より 3%減りました。昨年度の男子の入学者数と女子の入学者数を求める。川西市平均正答率 49.7% 全国平均正答率 44.9%】

与えられた数量に着目し(男女合わせて 233 人)、相等関係の構造をつかむこと。あわせて、百分率を使って数量を表す指導が必要である。百分率と歩合といった割合を表す小数の意味や、基準量からの増減を、百分率を使ってどのように表すのかといった学習活動の充実が大切である。

③事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明する

【例…連続する3つの整数の和が中央の整数の3倍になることの説明をする。川西市平均正答率 54.6% 全国平均正答率 43.1%】

説明や証明する場合は、まず、説明や証明したい結論をつかむことが大切である。そのためには、結論の“かたち”を考えること、その結論に必要な情報は何かといった証明の仕方を学ぶことが大切である。説明や証明といった無回答率が上がる設問は、結論までの見通しを持たせる指導が必要である。たとえば、なぜそういえるのか、なぜこのような結論がいえるのかといった数学的な根拠を考えさせる学習活動を計画的に組み込みながら、見通しを意識させることが大切である。



<図形>

□ (A) **空間図形を読み取ることができる**

投影図から空間図形を読み取ることや面の回転によって回転体が構成されること、平行線における同位角の意味については、多くの生徒が理解を示している。

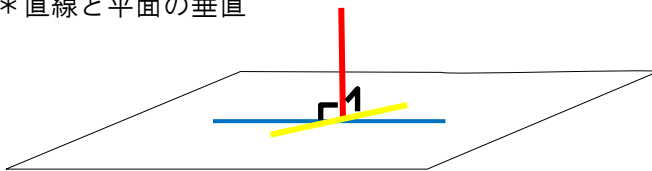
■ (A) **証明の必要性和意味を理解することができる**

■ (B) **図形の性質を用いて証明することができる**

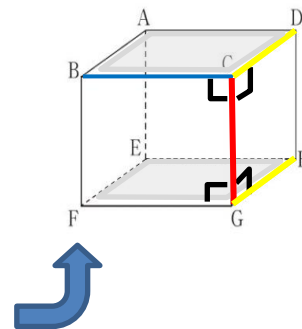
①空間における直線と平面の垂直についての理解

与えられた面に垂直な辺を書くことよりも、与えられた辺に垂直な面を書くことに課題があると考えられる。ICT活用や具体物から、図形に関するいろいろな定義を可視化し、イメージをつかませることが効果的である。

*直線と平面の垂直



(1) 下の図の直方体には辺CGに垂直な面がいくつかあります。そのうちの1つを選んで書きなさい。



②図形の性質を用いて問題解決の方法を数学的に説明する (31 ページに問題を示す)

解答類型から、正答である(ウ)を選択した生徒の割合は28.2%、誤答の(エ)を選択した生徒の割合は29.9%となっており、文字を用いることの必要性や意味、また、実測や操作など帰納的な方法による説明と演繹的な推論による説明の違いや実測をすることは無限に調べなければならないことを理解することが大切である。

【文字を用いることの必要性や意味のポイント】

*文字は単なる記号ではなく、いろいろな値をとることができること

*文字がとり得る値の集合について理解し、変数の考えを深めることができること

例) 個々の奇数をどのような形で表現し、それらをまとめると奇数が一つの文字を用いた式

$2n+1$ に表現できるなど、

$$1=2\times 0+1 \quad 3=2\times 1+1 \quad 5=2\times 2+1 \quad \dots \quad \rightarrow \quad (\text{奇数})=2\times n+1$$

①
下の図のように直線 l と直線 m が交わっているとき、

$\angle a = 180^\circ - \angle c$ $\angle b = 180^\circ - \angle c$

よって、 $\angle a = \angle b$
したがって、対頂角は等しい。

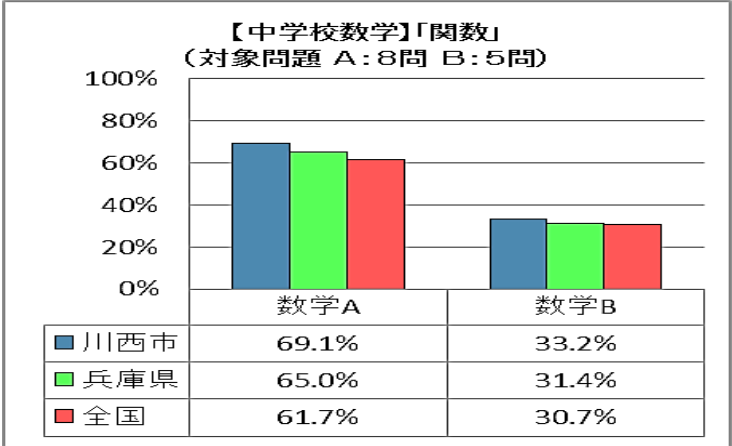
②
下の図のように直線 l と直線 m が交わっているとき、
2つの角の大きさをそれぞれ測ると、

$\angle a = 60^\circ$ $\angle b = 60^\circ$

よって、 $\angle a = \angle b$
したがって、対頂角は等しい。

2つの直線がどのように交わっても「対頂角は等しい」ことの証明について、正しく述べたものが下のアからオまでの中にあります。それを1つ選びなさい。

- ア ①も②も証明できている。
- イ ①は証明できており、②は2つの直線の交わる角度をいろいろに変えて同じように確かめれば証明したことになる。
- ウ ①は証明できているが、②は2つの直線の交わる角度をいろいろに変えて同じように確かめても証明したことにはならない。
- エ ①も②も2つの直線の交わる角度をいろいろに変えて同じように確かめれば証明したことになる。
- オ ①は2つの直線の交わる角度をいろいろに変えて同じように確かめれば証明したことになるが、②はそれでも証明したことにはならない。



<関数>

- (A) 時間と道のりの関係を表すグラフから、与えられた時間における道のりを読むことができる。グラフを時間と道のりなど具体的な事象と関連付けて解釈することは、相当数の生徒が理解している。
- (B) 数学的な表現を用いて、説明することができる。

活用力を育むため、今度、指導の充実のポイントとなるのは以下の点である。

与えられた情報から、

 - ①必要な情報を選択し、的確に処理すること
 - ②数学的な結果を事象に即して解釈すること
 - ③事象が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明すること

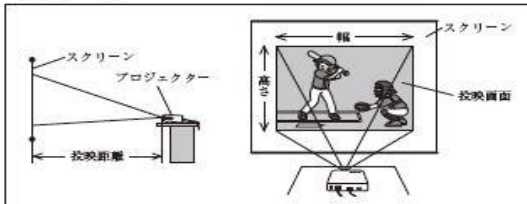
① (1) の川西市平均正答率は 35.6% (全国比+6.3ポイント)。このうち、半数以上の生徒が① (2) で誤答している。立式はできて、それを事象に即して解釈することができていないと考えられる。一方で、① (2) の川西市平均正答率は 35.7% (全国比+0.6ポイント)。このうち、半数近くの生徒が① (1)

で誤答している。事象に即して解釈することはできても、立式できないことが考えられる。こうした結果から、実生活の場面での問題を解決する活動を取り入れ、与えられた情報から目的に応じて必要な情報を適切に判断し、事象に即して数学を活用できる指導の工夫が求められる。

また、①(3)のように事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明する記述式問題も依然として課題がある。2つの数量を表した表やグラフなどを基にして変化や対応の様子に着目させたり、特徴を見出させたり、資料を多面的に考察させることを日頃の学習活動に取り入れることが大切である。

- ① 健治さんの学校では、新入生歓迎会のときに、体育館で部活動紹介の映像を流します。映像は、プロジェクターでスクリーンに映し出されます。そこで、健治さんはプロジェクターの置き場所を決めるために、プロジェクターについてインターネットで調べました。

健治さんが調べたこと



投影距離 (m)	投影画面の大きさ		
	高さ(m)	幅(m)	面積(m ²)
1.0	0.6	0.8	0.48
1.5	0.9	1.2	1.08
2.0	1.2	1.6	1.92

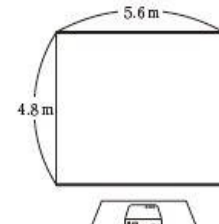
- 投影画面の大きさは、投影距離によって変わる。
- 投影画面の形は、調整されて、いつも長方形になる。
- 投影画面の高さや幅は、投影距離に比例する。

次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

- (1) 投影距離を x m、投影画面の高さを y m とするとき、 y を x の式で表しなさい。

- (2) スクリーンの高さは4.8m、幅は5.6mです。投影画面を、スクリーンからはみ出ないようにして、できるだけ大きく映し出すためには、投影距離を何mにすればよいですか。下のアからエまでの中から正しいものを1つ選びなさい。

- ア 5m
- イ 6m
- ウ 7m
- エ 8m

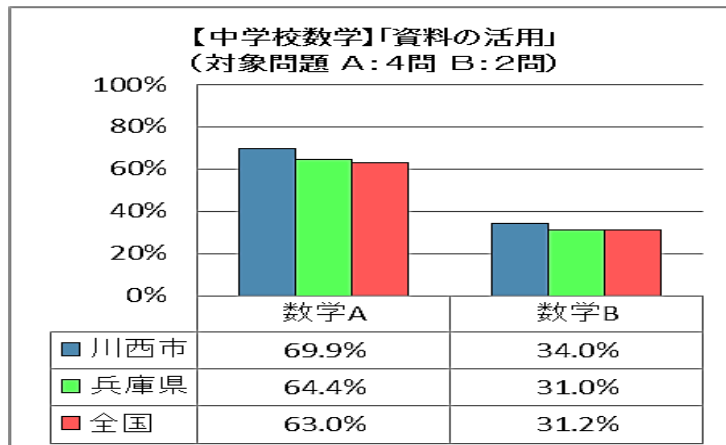


- (3) 健治さんは、映像が暗くて見にくいのではないかと気になりました。しかし、プロジェクターの光源の明るさを変えることはできません。そこで、映像の明るさについて調べると、映像の明るさと投影画面の面積の関係は、次の式で表されることがわかりました。

$$\left(\begin{array}{c} \text{映像の} \\ \text{明るさ} \end{array} \right) = \left(\begin{array}{c} \text{プロジェクターの} \\ \text{光源の明るさ} \end{array} \right) \div \left(\begin{array}{c} \text{投影画面の} \\ \text{面積} \end{array} \right)$$

このとき、映像の明るさを2倍にするにはどうすればよいですか。下のア、イの中から正しいものを1つ選びなさい。また、それが正しいこと理由を、上の式で表される関係をもとに説明しなさい。

- ア 投影画面の面積を2倍にする。
- イ 投影画面の面積を $\frac{1}{2}$ 倍にする。



<資料の活用>

- (A) 度数分布表について、ある階級の度数を求めることができる

割合を求めること、文字を用いた式で数量及び数量関係を捉えることは、多くの生徒が理解を示している。

- (B) 資料の傾向を的確に捉え、数学的な表現を用いて説明することができる

ヒストグラムや代表値を用いて資料の傾向を捉え説明することには、依然課題がある。平均値や最大値等といった言葉には馴染みがあるが、意味の理解に結び付いていないことが考えられる。⑤(2)では、分布の中に極端に離れた値があることから、平均値だけで判断するのではなく、グラフで分布の特徴に

着目しながら、平均値だけでなく他の代表値を求めるなど、資料の傾向を捉えることが必要である。判断の理由を数学的な表現を用いて説明することを生徒が意識できるように指導することが大切である。

まず、資料を見る視点を考えさせる場面をつくり、いろいろな資料の見方を身に着けさせる。そして、分布の様子や代表値などから自分なりの根拠をもって、資料の傾向を捉えさせ、他の意見を聴いて、その意見と根拠を考察したり、自分の意見と比較して、自分の意見を振り返る活動を取り入れる。

5 生活委員会では、落とし物を減らすために、全15学級で落とし物調査を行うことにしました。

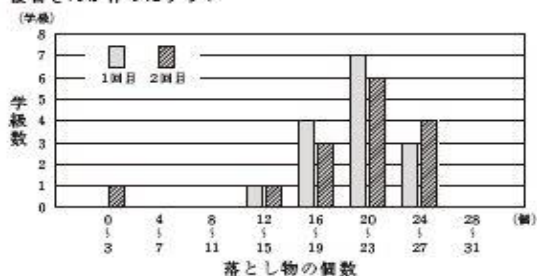
調査を同じ日数で2回行ったところで、拓也さんと優香さんは、その結果を表とグラフにまとめました。優香さんが作ったグラフでは、例えば、落とし物の個数が12個以上15個以下だった学級が、1回目、2回目とも1学級ずつあったことを表しています。



拓也さんが作った表

		(個)	
		1回目	2回目
種類	文房具	201	212
	ハンカチ・タオル	49	28
	その他	55	50
落とし物の合計		305	290
落とし物の合計の平均値 (1学級あたりの落とし物の個数)		20.3	19.3

優香さんが作ったグラフ



次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

(1) 拓也さんが作った表の1回目の調査で、落とし物の合計のうち、文房具の占める割合を求める式を答えなさい。ただし、実際に割合を求める必要はありません。

(2) 二人は、調査結果について話し合っています。

拓也さん「落とし物の合計の平均値が20.3個から19.3個に減ったから、1回目より2回目の方が落とし物の状況はよくなったね。」
優香さん「でも、平均値だけで判断していいのかな。グラフ全体を見ると、よくなったとは言いきれないよ。」

グラフを見ると、優香さんのように「1回目より2回目の方が落とし物の状況がよくなったとは言いきれない」と主張することもできます。そのように主張することができる理由を、優香さんが作ったグラフの1回目と2回目の調査結果を比較して説明しなさい。

(3) 二人は、落とし物を減らすための対策について話し合っています。

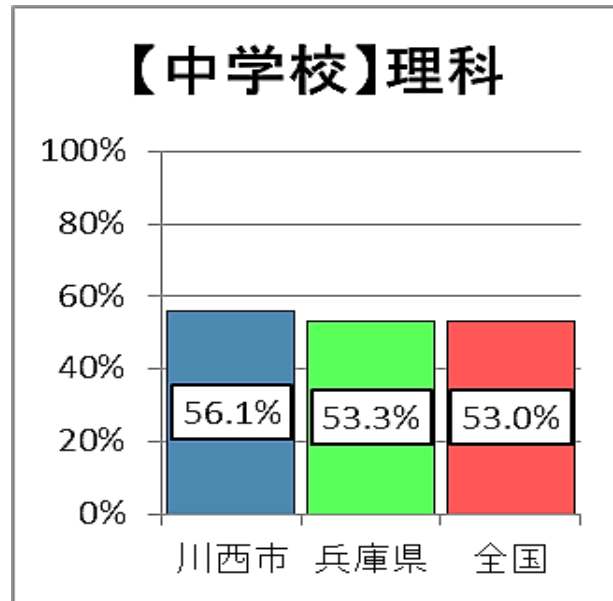
拓也さん「落とし物が少ない学級では、持ち物に記名するようになっているみたいだよ。」
優香さん「次は、記名のある落とし物とない落とし物を分けて数えて、取り組みのよい学級を表彰したらどうかな。」
拓也さん「記名のある落とし物を1個1点、ない落とし物を1個2点として集計し、表彰する学級を決めよう。」

下線部の考えをもとに表彰する学級を決めます。記名のある落とし物を a 個、記名のない落とし物を b 個としたとき、表彰する学級の決め方として正しいものを、下のアからエまでの中から1つ選びなさい。

- ア $a + 2b$ の値が最も大きい学級にする。
- イ $a + 2b$ の値が最も小さい学級にする。
- ウ $2a + b$ の値が最も大きい学級にする。
- エ $2a + b$ の値が最も小さい学級にする。

調査結果 中学校理科

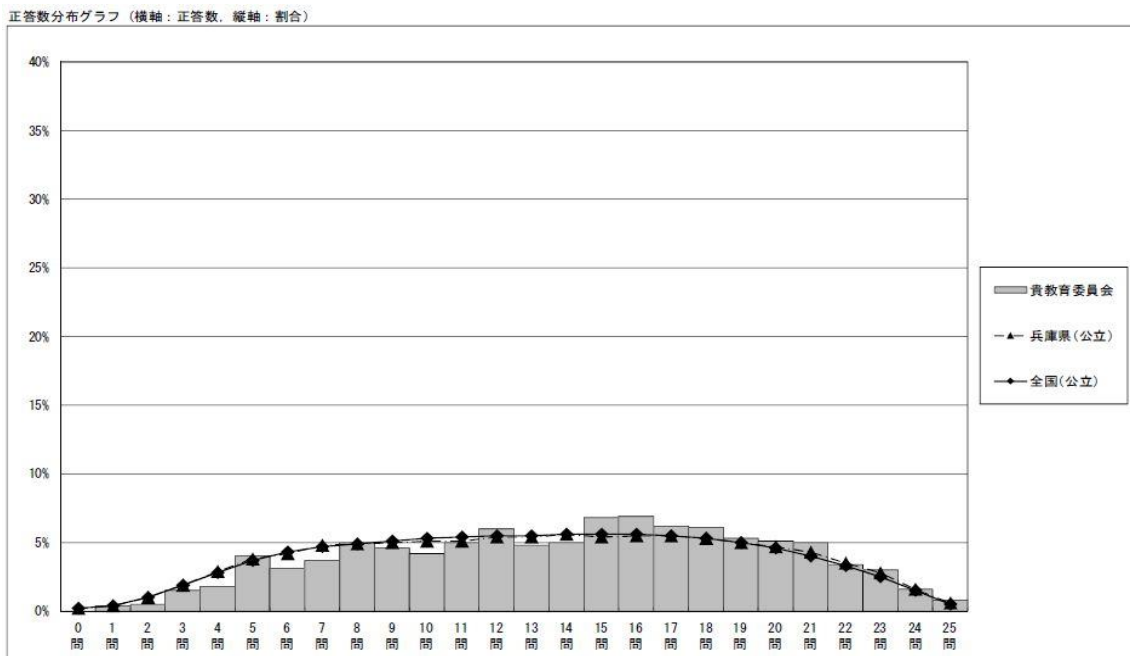
①教科全体の平均正答率



川西市平均正答率を兵庫県、全国と比較すると、理科（知識・活用）は、56.1%（兵庫県比+2.8 全国比+3.1）である。したがって、理科の 川西市中学生の学力は『良好』であるといえる。

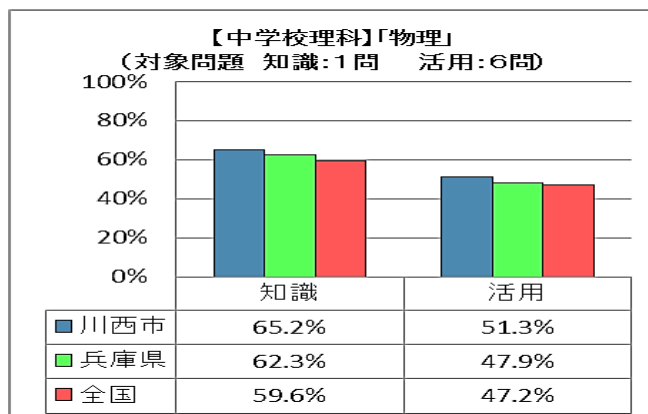
②度数分布図

【理科】



	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
川西市教育委員会	1,368	14 / 25	56.1	15.0	5.6
兵庫県（公立）	45,814	13.3 / 25	53.3	13.0	5.8
全国（公立）	1,016,572	13.3 / 25	53.0	13.0	5.7

③領域・事項別の平均正答率



<物理>

□ (知識) **オームの法則を使って、抵抗の値を求めることができる**

「オームの法則」を使って抵抗の値を求める問題。抵抗の値を求める問題は、過去の調査において何度も出題されている。川西市平均正答率は65.2%（全国比+5.6ポイント）である。解答類型から、「無回答」と「式を正しく立てられない」の割合の合計が18.5%であることから、単に「オームの法則」の公式に数値を当てはめて抵抗の値を計算して求めるだけでなく、直列や並列など様々な電流回路の各点を流れる電流や各部に加わる電圧についての規則性に関する知識を身に付けることが、大切である。

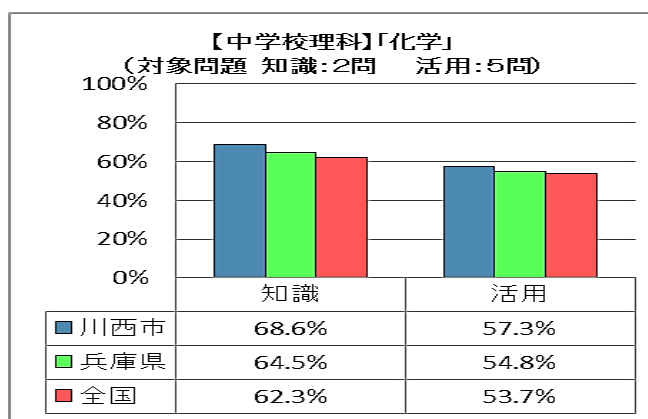
■ (活用) **音の波形の特徴を説明することができる**

音の高さは何に関係しているのか確かめる実験を計画することができる

日常生活や社会の特定の場面において、理科で学習した知識や概念を活用しながら、課題の解決に取り組むことは、科学的な思考力や表現力を高める上で大切である。例えば、

① コップに水を注ぐ際の音の高さの変化について考察する

② コンピューターなどを用いて音を波形として表示し、音の高さと振動数の関係を見い出すなどの学習活動を設定することが必要である。



<化学>

□ (知識) **化学式の表し方について理解できる**

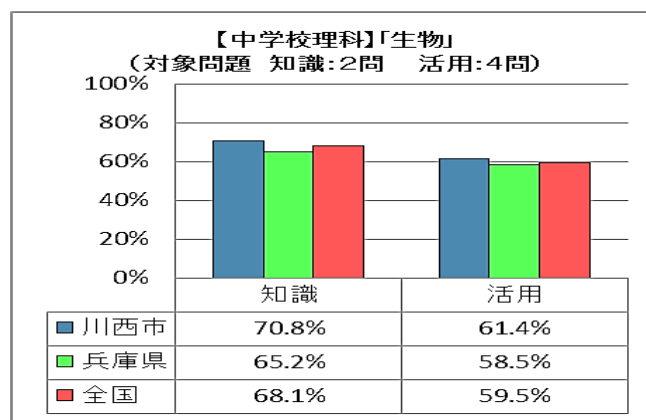
塩化ナトリウムを化学式で表すことを問う設問については、川西市平均正答率は86.0%であり、多くの生徒が理解している。

■（知識） **特定の質量パーセント濃度の水溶液の溶質と水の質量を求めることができる**

「特定の質量パーセント濃度の水溶液の溶質と水のそれぞれの質量を求める」問題。この設問は平成24年度調査の濃度及び食塩水の質量の値を変えて出題されているが、今回、川西市平均正答率は51.2%（全国比+6.2ポイント）である。全国平均を上回っているものの、引き続き指導の充実が求められる。

■（活用） **混合物を加熱したときの化学変化を説明することができる**

熱による分解の知識を活用して、実験から得られた結果をもとに他者の考えを検討し改善し、炭酸水素ナトリウムとクエン酸の混合物を加熱したときの化学変化を説明するという設問である。このように、既習の知識やグラフや表といった実験結果から得られたデータをもとに、たとえば、教科書に出ている同じ実験だけでなく、違った場面や実験といった未知の内容にも対応できる力の育成が、今後必要となってくる。



<生物>

□（知識） **デンプンが消化酵素によって分解され、最終的にできる物質の名称を表すことができる**

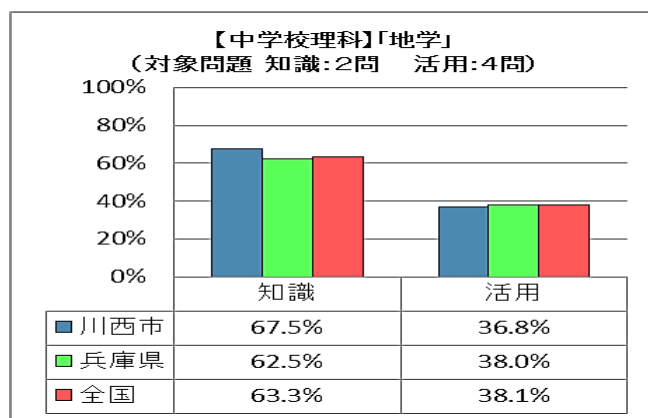
消化酵素によってデンプンが最終的に分解された物質の名称と問う設問について、川西市平均正答率は75.2%（全国比+3.0ポイント）である。生命を維持する働きを学ぶ学習においては、動物には消化器官が備わっており、その働きによって食物が消化され、栄養として吸収される仕組みを理解することが大切である。

■（活用） **実験結果に対する理由を説明したり、考察を記述したりすることができる**

基礎的・基本的な知識・技能を活用して、自然の事物・現象の中に問題を見いだして課題を設定し、予想や仮説を立てたり、観察・実験の条件を考えたりすることで、観察・実験を計画する力【構想】の育成が大切である。指導にあたっては、生徒自身が、

- ①観察・実験を何のために行うのか
- ②観察・実験ではどのような結果が予想されるのか

このような、見通しをもつ機会をつくり、目的意識をもって観察・実験を行う学習場面を設定することが考えられる。



<地学>

□ (知識) 天気記号から風力を読み取ることができる

天気図から風力を読み取る設問について、川西市平均正答率は 83.6% (全国比+5.7 ポイント) であり、多くの生徒が理解を示している。

■ (知識) 天気記号から風向を読み取り、風向計を使って風向を観察することができる

天気記号から、風向を読み取るための基礎的・基本的な知識を身につけ、風向計の原理や仕組みを理解して、風向を観察する技能を身に付ける学習場面を設定することが大切である。

■ (活用) 雲の成因に関する知識を活用して、水の状態変化と関連付けて雲の成因を正しく説明することができる

雲の成因に関する知識を活用して、水の状態変化と関連付けて雲の成因を正しく説明する問題に対して、川西市平均正答率は 12.3% (全国比-2.2 ポイント) であり、指導の充実が求められる。

【雲の成因】

- ① 空気は上昇するとまわりの気圧が下がり膨張する
- ② 膨張したため、空気の温度は下がる
- ③ 空気の温度が下がることで、露点に達した空気中の水蒸気が水滴に変わり雲ができる

このように、雲の成因については、空気の体積と気温の関係、高度と大気圧の関係、水の状態変化に関連する知識を整理しておくことが大切である。

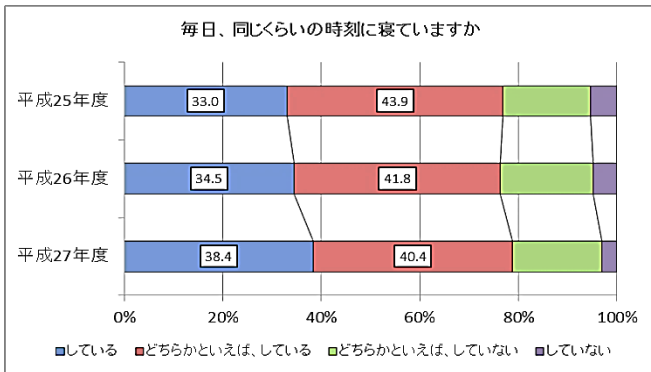
3. 平成 27 年度生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査結果

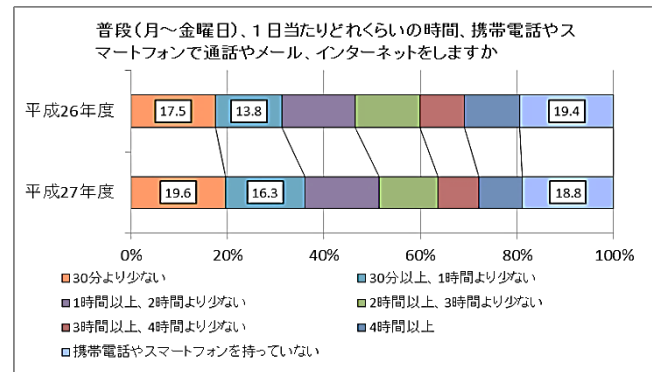
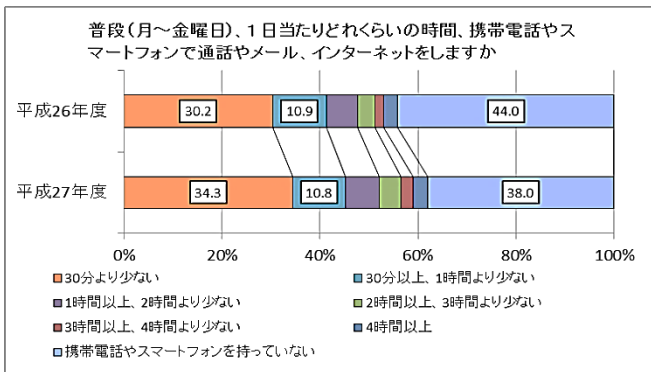
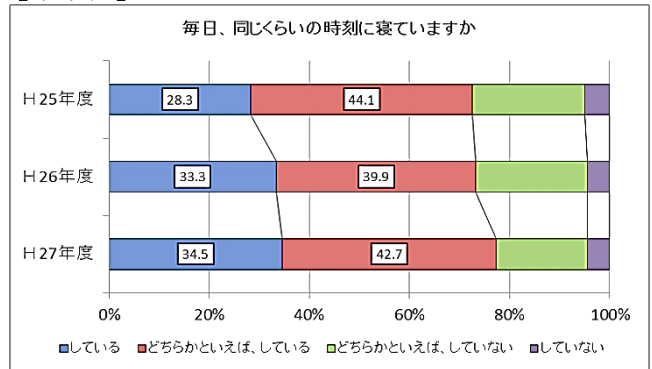
1

基本的な生活習慣の向上

【小学校】



【中学校】

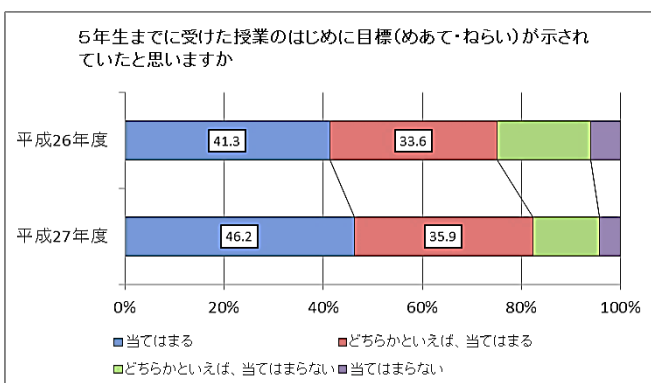


就寝や朝食だけでなく起床、テレビやゲーム、携帯電話の使用時間も含めた家庭での生活習慣と学力に相関関係があることは、これまでの調査結果から明らかである。「毎日、朝食を食べている」肯定的回答割合は9割を上回っていること、テレビゲームで遊ぶ時間や、携帯電話・スマートフォンの利用時間については、昨年度と比較すると、「1時間より少ない」と回答した割合が増加していることなど、基本的な生活習慣や上手なメディアとの付き合い方については、学校における生活指導や家庭の協力などにより、良好な状況が伺える。 (P49 家庭①)

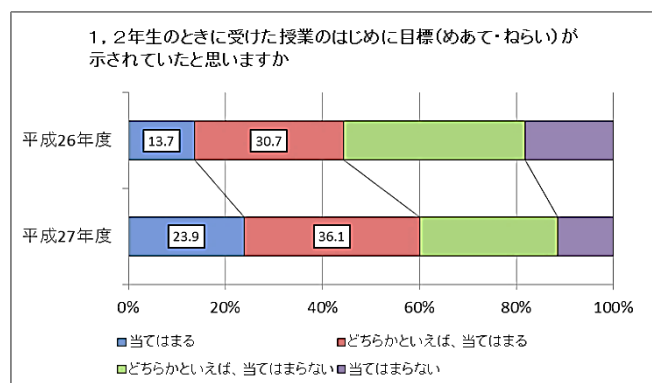
2

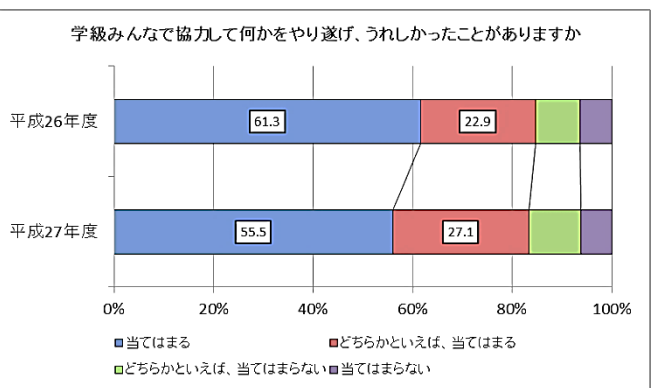
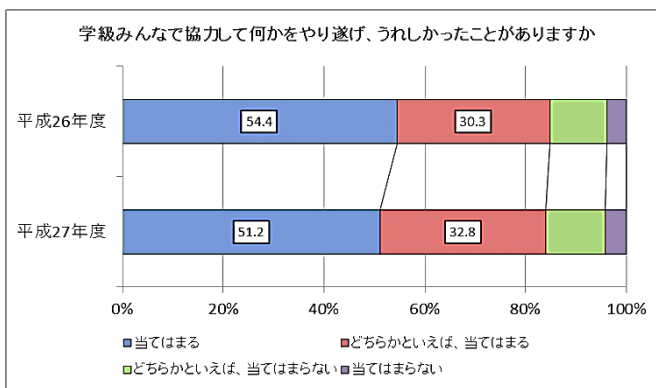
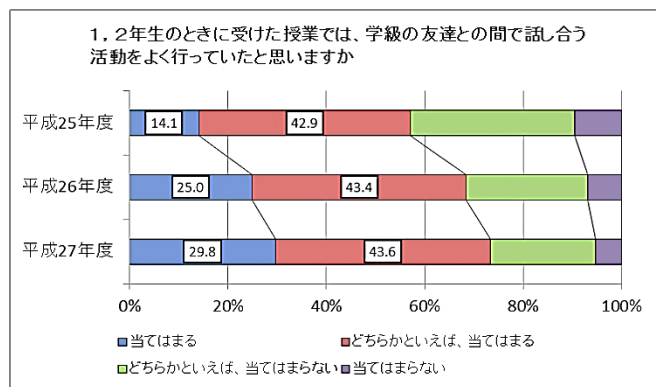
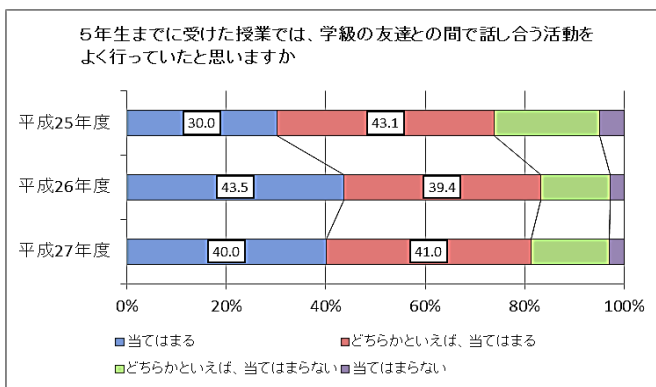
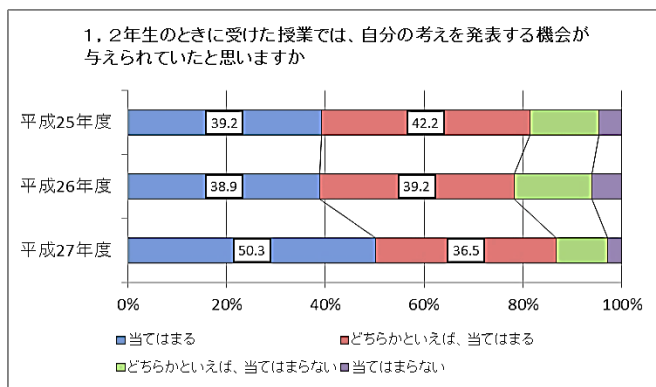
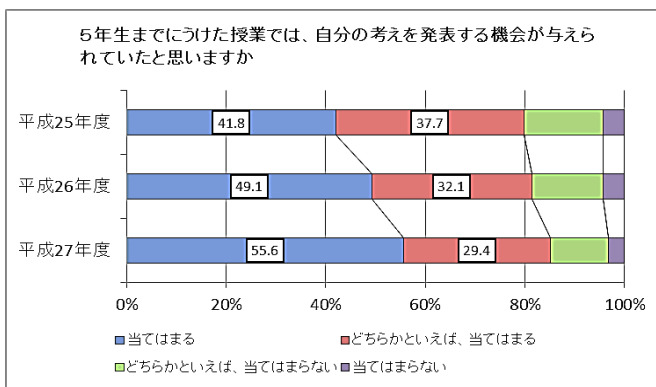
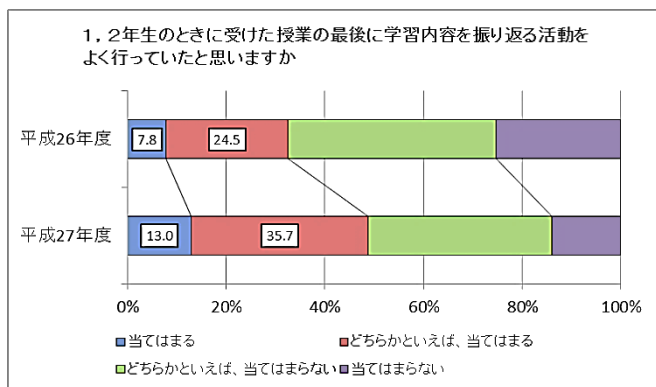
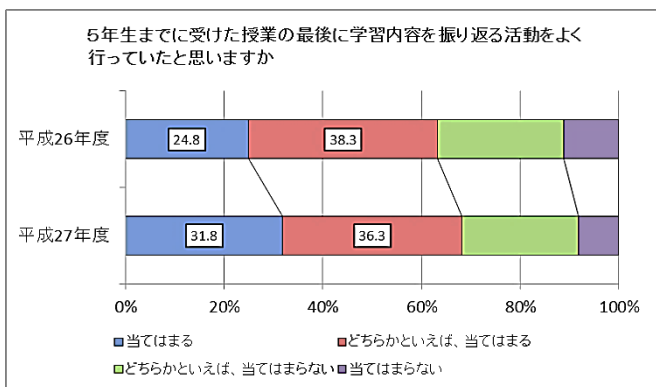
学級での取り組みの充実にむけて

【小学校】



【中学校】





学力向上に向けた取り組みとして、授業においては、学習内容の確実な定着や思考力・判断力・表現力等の育成に向けて、「目標をもって見通しを立てたり、結果を振り返ったりする」ことは大切である。「授業の最初に目標（めあて・ねらい）が示されていた」と肯定的に回答した割合は、小学校 82.1%（前年度比+7.2 ポイント）、中学校 60.0%（前年度比+15.6 ポイント）と上昇しており、授業の最初に「何を学ぶか」見通しがもてる児童生徒が増えている。あわせて、「授業の最後に学習内容を振り返る

活動をよく行っていた」と肯定的に回答した割合も、小学校 68.1%（前年度比+5.0 ポイント）、中学校 48.7%（前年度比+16.4 ポイント）と上昇を示している。

次期学習指導要領では、

- ①何事にも主体的に取り組もうとする意欲
- ②多様性を尊重する態度
- ③他者と協働するためのチームワークやコミュニケーションの能力

こうした、新しい時代に必要となる資質・能力の育成として、教員による一方的な講義形式ではなく、課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び（アクティブ・ラーニング）が求められている。

そこで、下記に示す内容が重要となってくる。

- ①他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの充実
- ②子どもたちが見通しをもって取り組み、自らの学習活動を振り返り次につなげる主体的な学びの充実

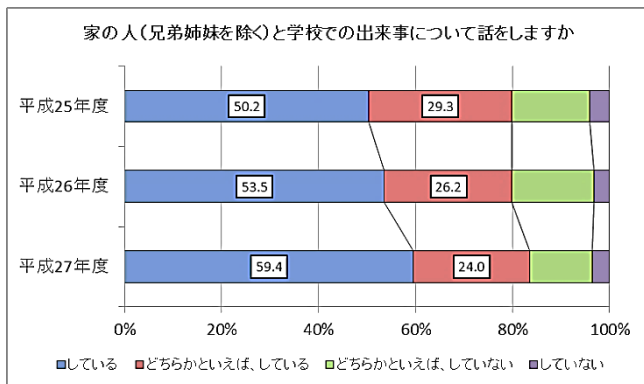
児童質問紙調査結果から、「発表する」「話し合う」活動は年々充実しており、また、「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかった」という体験も、小中学校とも8割を上回っている。達成感などを味わわせる指導の場を設定し、児童生徒主体の活動や活力のある授業展開になるよう一層の工夫・改善を図ることが大切である。

(P 49 学校①)

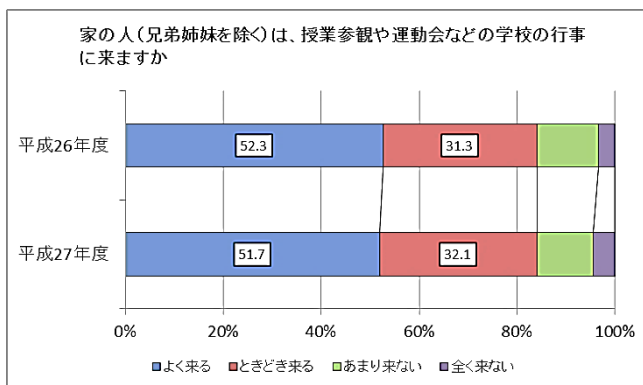
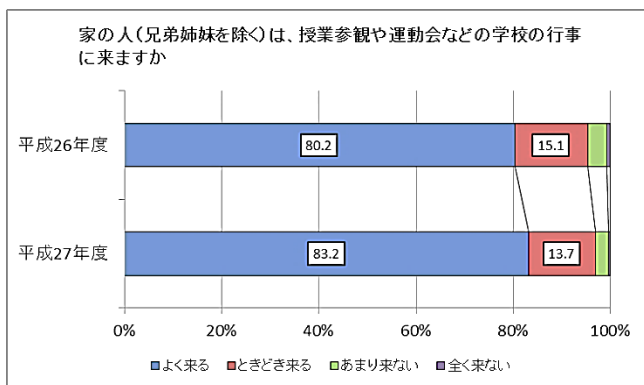
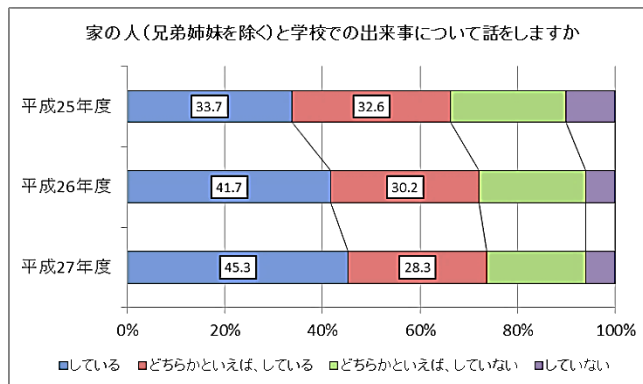
3

家庭や地域とのつながり

【小学校】

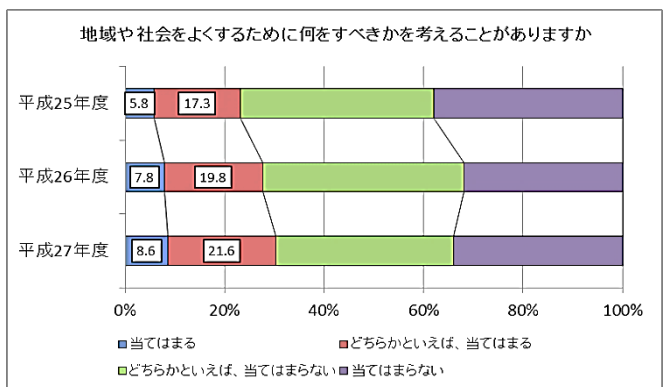
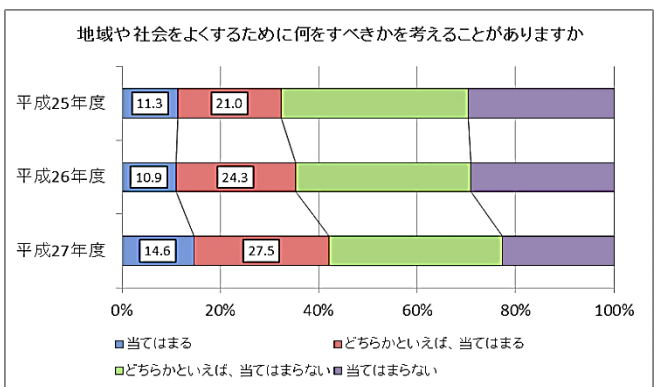
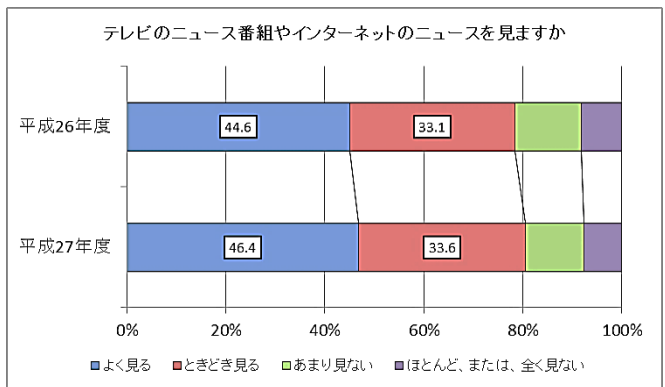
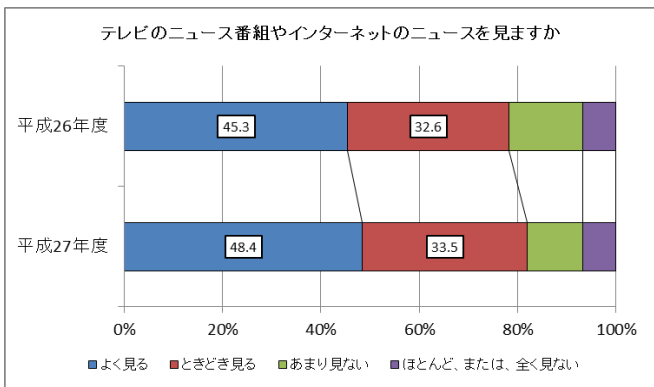
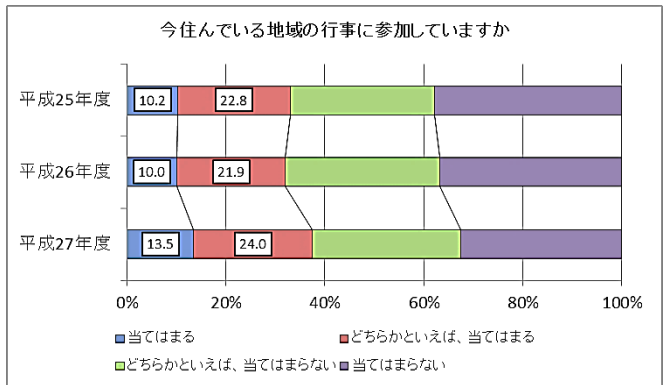
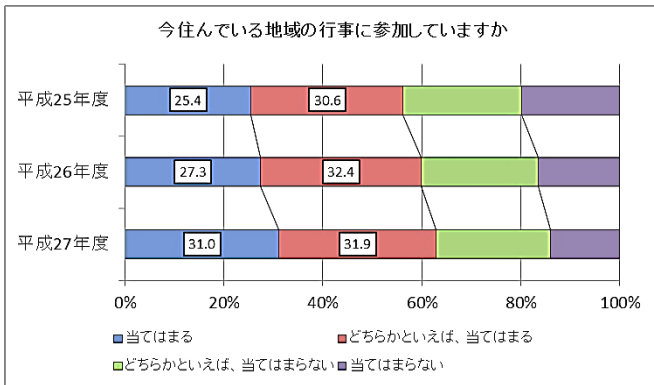


【中学校】



児童生徒質問紙と教科とのクロス集計によると、小中学校共に、「家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をする」、「家の人（兄弟姉妹を除く）は、授業参観や運動会などの学校の行事に

来る」という家族や学校の繋がりと学力には、相関関係があるとされている。川西市は、年々、家族とのつながりを肯定的に捉えている児童生徒の割合が増加傾向にある。特に、その日の出来事を家で話すということは、子どもが日を振り返り、何を話そうか自分で決め、話の内容をまとめ、自分の言葉で相手に伝えるということは、毎日が発表の練習の場となる。それだけでなく、子どもは話を聞いてもらうことで、家族から愛情を感じることができ、自尊感情を育むことにもつながる。今後も、学校ホームページや学校だより等を通して、学校の教育活動などを保護者・地域に積極的に情報発信することは、子ども、学校、家庭を繋ぐうえで効果的な取り組みである。 (P49 学校⑥) (P49 家庭③)

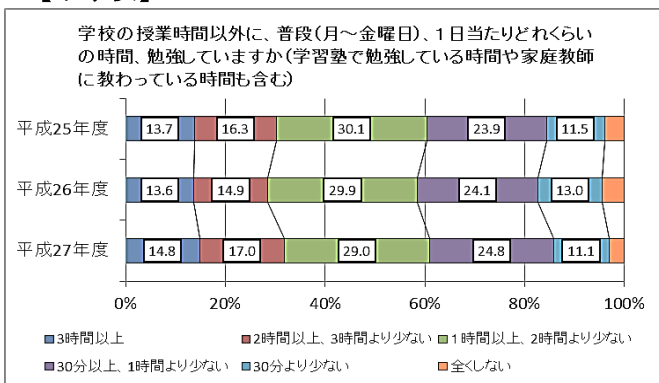


地域への興味・関心についても過去の調査結果から、学力と相関関係があるといわれている。「地域の行事への参加」の肯定的回答の割合は、小学校 62.9% (平成 25 年度比+6.9 ポイント)、中学校 37.5% (平成 25 年度比+4.5 ポイント) となっている。全国平均と比較すると地域への参加の割合は依然低いですが、本市においては、年々、増加傾向にある。特に、中学校は、クラブ活動等が実施されている中で増加傾向にあるのは、学校と地域との連携やノ一部活デー等といった取り組みにより、生徒が参加しやす

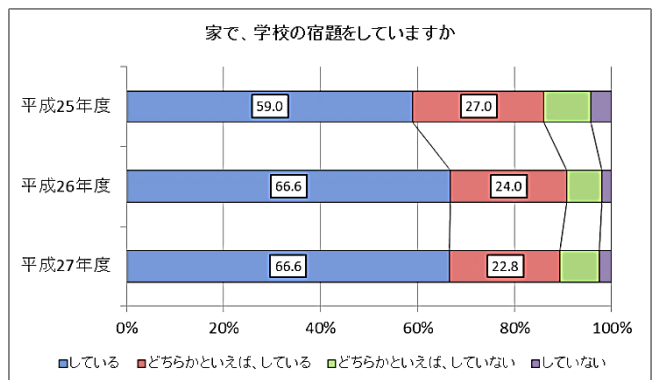
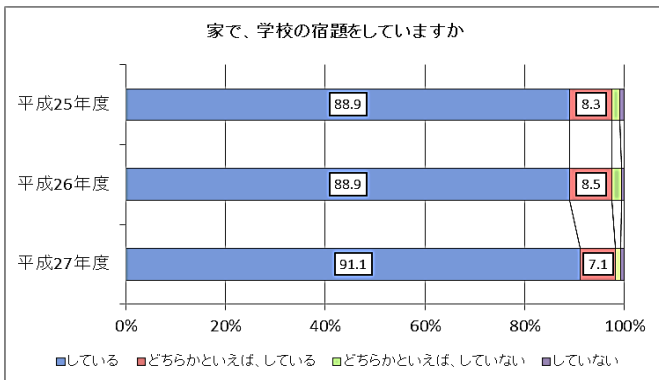
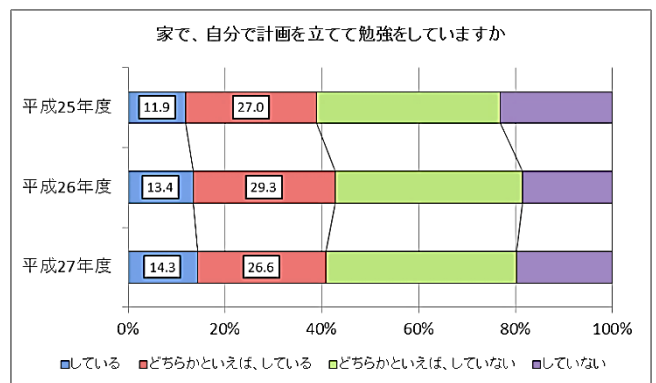
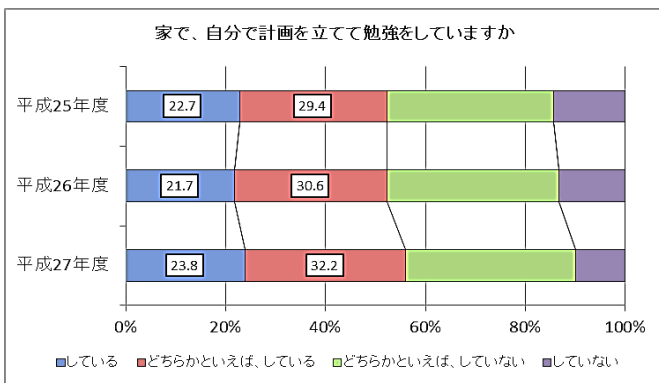
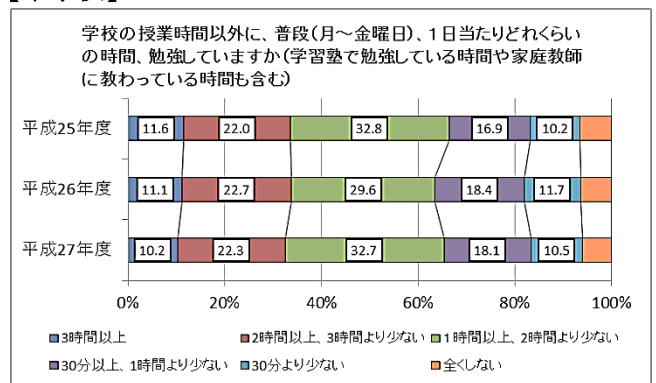
い状況が確保されてきたことも要因として考えられる。社会への関心・興味については、「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る」と肯定的回答割合は、小中学校共に80%を超えている一方で、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」と肯定的に回答した割合は、小学校42.1%（全国比-2.7ポイント）、中学校30.2%（全国比-2.7ポイント）にとどまっている。世の中の動きや変化に関心を持ったり、社会の出来事に対して自分なりの考えを持ったりすることが大切である。また、地域行事に参加する割合が増加傾向にある状況を生かして、自ら社会に関わっていくための基盤として、世の中の動きに関心を持たせることも大切にしたい。（P49 地域④）

4 家庭学習の充実

【小学校】



【中学校】



家庭学習の充実と学力は、相関関係があるとこれまでの調査結果からもいわれている。

「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たり1時間以上勉強している」割合は、小学校

60.8%、中学校 65.2%と平成 25 年度調査からほぼ同じ割合で推移しており、一定の水準を保っている。

本市では、放課後学習支援事業「きんたくん学びの道場」（以下「学びの道場」とする）を推進しており、「学びの道場」を通じて、子どもたちに身に付けさせたい力として、①家庭学習の習慣化、②基礎的・基本的な学力の定着を掲げている。

家庭学習において宿題や自学に取り組むことは、①家庭学習の習慣化、②基礎的・基本的な学力の定着、に対して効果的である。児童生徒質問紙、「学校の宿題をする」肯定的回答割合は、小学校 98.2%（全国比+1.4 ポイント）、中学校 89.4%（全国比+0.1 ポイント）と小中ともに全国平均を上回っており、課題に真面目に取り組む意識は年々高いものとなっている。このような調査結果とともに、「教科に関する調査」において、小学校国語、算数の平均正答率が昨年度と比較して改善の傾向がみられ、「学びの道場」の効果であると同える。平成 27 年度は、「学びの道場」を全校実施としており、今後も継続して取り組みを進めていくこととする。

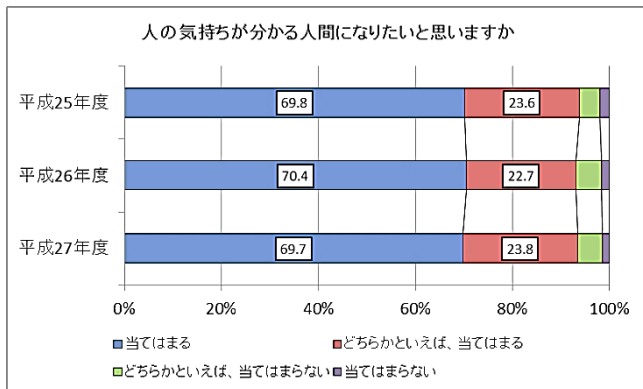
また、「家で、自分で計画を立てて勉強している」の肯定的回答割合は小学校 56.0%、中学校 40.9% であることから、家庭で学習する機会の高い小学校段階では、自分で計画を立て勉強する意味や方法を伝えることが重要である。家庭学習に取り組むことに意味をより見出せるようにするために、家庭学習の内容を、予習、復習等が授業と関連する課題にしたり、個に応じた内容や方法を指導したりする取り組みを一層進めることや、児童生徒が個別に作成した学習計画表をもとに家庭学習を進め、目標が達成できたかどうか自己評価するような自学の取り組みが大切である。

（P48 川西市教育委員会⑦） （P49 学校④、家庭②）

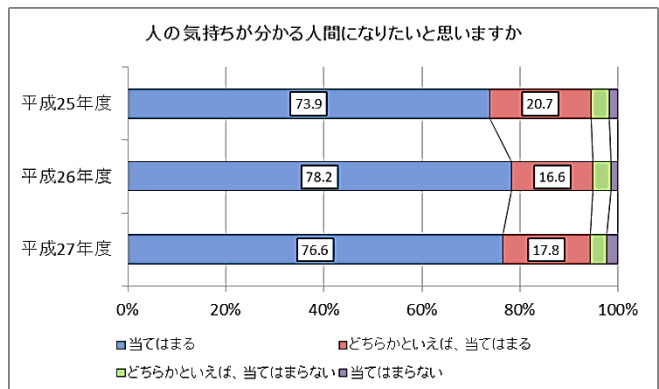
5

自己肯定感と道徳性の高まり

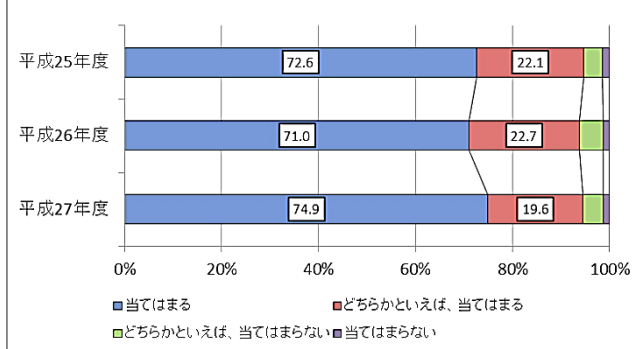
【小学校】



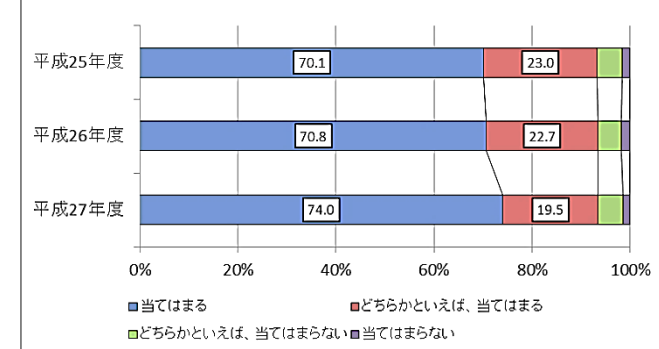
【中学校】



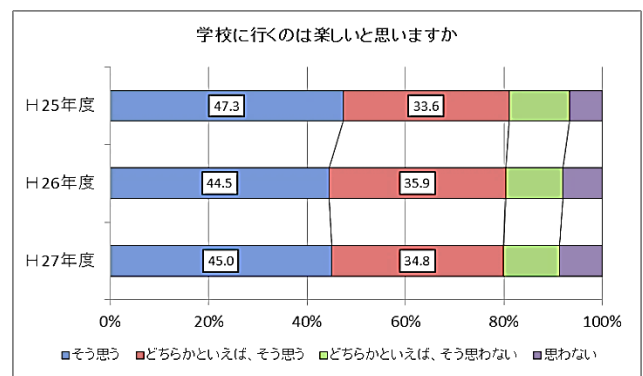
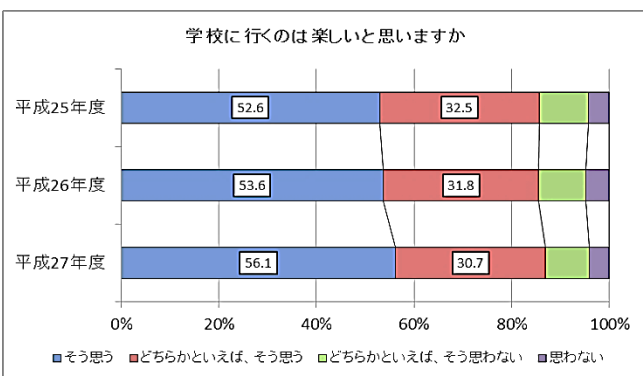
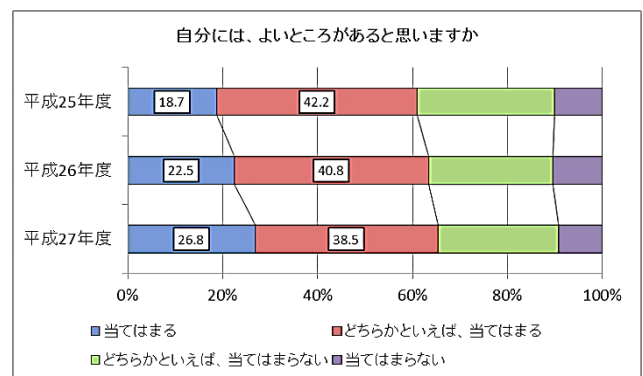
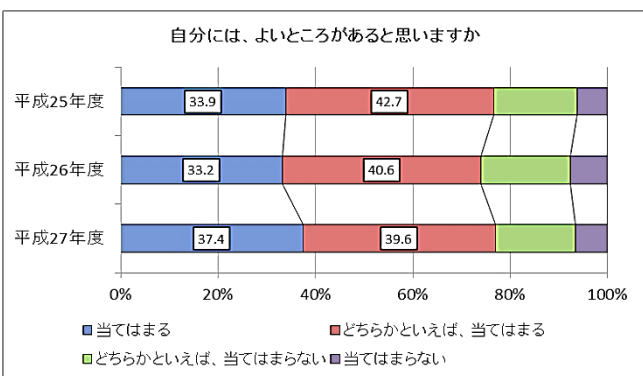
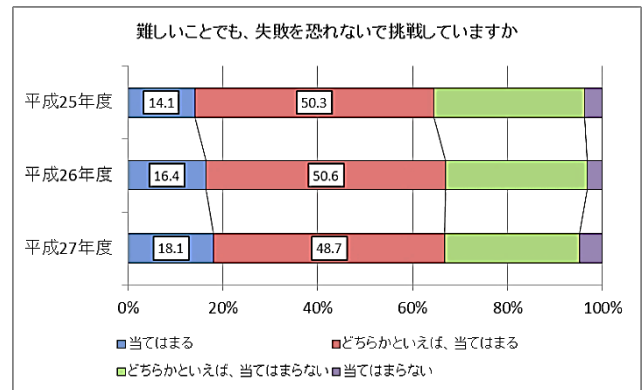
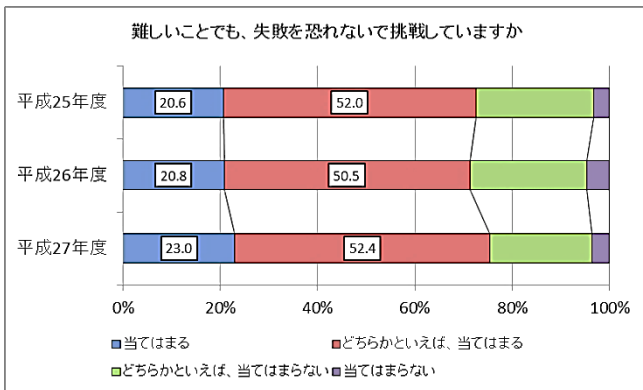
ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか



ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか



「人の気持ちが分かる人間になりたいと思う」の肯定的回答割合をみると、小学校 93.5%、中学校 94.4%、また「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」と肯定的回答割合も、小学校 94.5%、中学校 93.5%となっている。規範意識や人を思いやる心を培い、物事に取り組む姿勢や意欲付けを子どもたちに寄り添いながら指導する成果が現れている。学校質問紙「前年度までに、様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をした」の肯定的回答割合が小学校 93.8%、中学校 71.4%であることから、児童生徒の考える時間を確保し、じっくりと向き合う指導を大切にしていることが伺える。 (P 49 学校⑥)



『高校生の生活意識と留学に関する調査報告書』(2012年4月)【(出典)(財)一ツ橋文芸教育振興会、(財)日本青少年研究所 文部科学省作成】で高校生を対象に「自分の性格評価」に関する質問紙調査が実施されており、「価値のある人間」と肯定的に捉えている割合は、韓国 86.7%、中国 86.7%、米国 79.7%に対して日本は 39.7%、また、否定的な回答の割合は、韓国 31.9%、中国 39.1%、米国 52.8%に対して日本は 83.6%という調査結果もあり、自尊心を高めることは課題とされている。

そうした中、本市は「自分にはよいところがある」と肯定的な回答の割合は、増加傾向にある。この

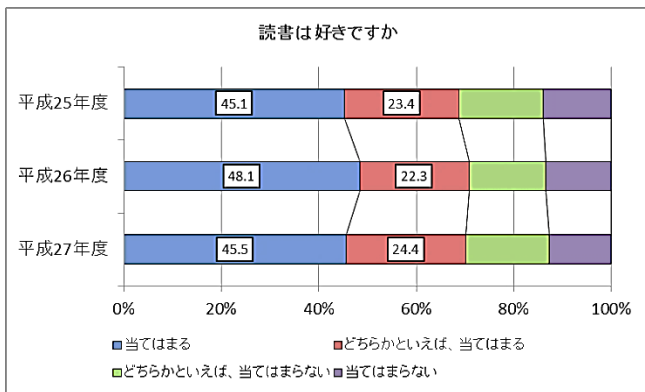
ことは、川西市習熟度調査の質問紙項目にある「学校の先生は、自分のことを認めてくれていたと思う」の肯定的回答割合が、小学校 75.6%（平成 24 年度）から 79.3%（平成 26 年度）と 3.7 ポイント、中学校 63.8%（平成 24 年度）から 68.2%（平成 26 年度）と 4.4 ポイントと小中学校とも上昇していることから伺える。各学校において、「わかる・できる」の結果の評価だけでなく、意欲や努力など取り組みの過程についても評価し、ほめて自信や意欲を高める指導の成果であることが伺える。児童生徒の自尊感情を高めるためには、家庭の関わりも重要である。家庭においても、些細なことでも子どもをしっかりほめて、良さを認めることの大切さを引き続き啓発していくことが大切である。

（☛P49 家庭①、③）

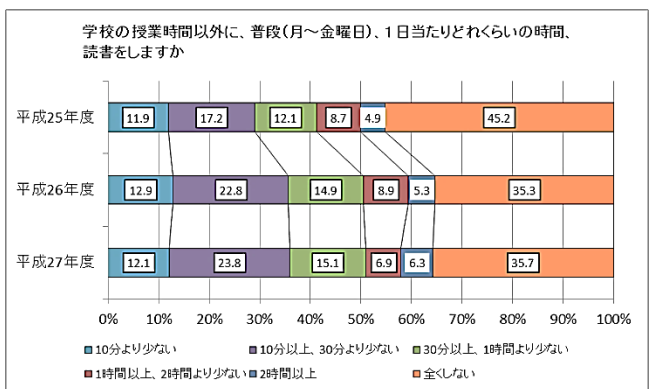
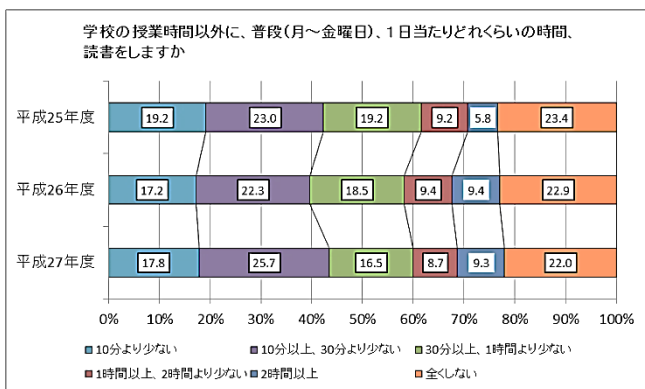
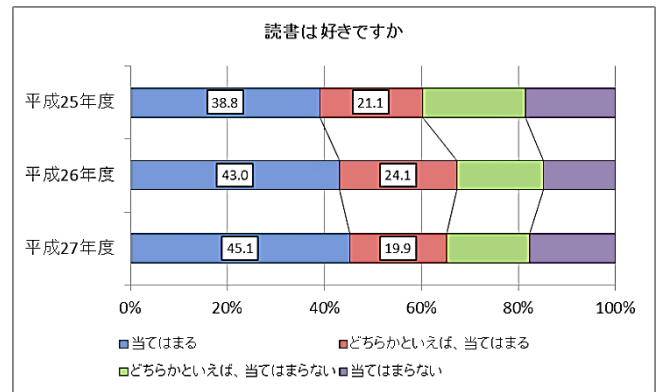
6

読書への興味・関心

【小学校】



【中学校】



「読書が好き」の肯定的回答割合は、平成 25 年度と比較して上昇傾向がみられる。学校司書や図書ボランティアとの連携や学校図書館を活用する機会の充実により、「読書が好き」と回答した割合は、平成 25 年度小学校-3.6 ポイント、中学校-10.2 ポイント、全国平均を下回っていた差が、今年度小学校-2.9 ポイント、中学校-2.9 ポイントと大きく縮まっている。学校の授業時間以外の普段の読書時間をみると、小中学校とも 10 分以上 30 分未満という時間の割合が増加傾向にある。

限られた読書時間の中で、読書の質を高める指導や、平日の時間を計画的に使って読書の時間を意欲的に生み出す指導など、児童生徒への適切な読書指導が望まれる。

（☛P48 川西市教育委員会⑤） （☛P49 学校⑥） （☛P49 家庭①、③）

4. 今後の取り組みについて

一人ひとりの子どもたちが、将来の変化を予測することが困難な時代に対応し、たくましく生きていくためには、社会の変化に受け身で対処するのではなく、自らの可能性を最大限に発揮し、よりよい社会と幸福な人生を創り出していくことが求められています。

そうした中、これからの時代に求められる資質・能力は、たとえば解き方があらかじめ定まった問題を効率的に解ける力だけでなく、膨大な情報から何が重要かを主体的に判断し、蓄積された知識・技能を組み合わせ、他者と協働しながら新たな価値を生み出していくことができる力です。

そのためには、子どもたち自身が「何を学ぶか」を自覚するだけでなく「どのように学ぶか」という主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう学び方の育成が必要となります。

本調査において国は、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることを目的としています。本市においても今回の調査結果は、川西市の子どもたちのこれから必要とされる資質・能力を育むための取り組みを検証するものであり、教育における目的を見失うことなく、わたしたちおとなが子どもたちのために環境を整えることが重要であると考えています。

子どもたちが将来の夢や目標を大きく持ち、それに向かって「学び」を進めていくためにも、学校・家庭・地域が一丸となってしっかり育て、支えていくことがとても大切であると考えます。

川西市教育委員会では、全国的な状況との関係及び川西市の経年変化などから、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立します。

- ① 基礎的な生活習慣や学習習慣の定着に向けて、家庭や地域との連携を深めるとともに、学級活動や児童会・生徒会活動などの特別活動、問題行動への迅速かつ的確な対応としての児童・生徒指導の更なる充実
 - ② 教職員の資質と実践的指導力の向上に向けて、小中学校の教育課程のつながりについての研究や教育実践の交流など、中学校区を核とした研修の実施
 - ③ 中1ギャップ、問題行動の解消や学びの連続性に基づく学力向上に向けて、小中連携教育の充実
 - ◇ 中学校区共通の「重点課題」の設定
 - ◇ 発達段階に応じた9年間の学習のきまりの目標設定
 - ◇ 9年間の学習内容の系統性に関する研究
 - ◇ 小中教職員の交流の推進
 - ④ 小学校外国語活動・中学校英語の授業の充実に向けて、外国人指導助手の配置
 - ⑤ 言語活動の礎となる読書活動の充実に向けて、学校図書館の積極的な利活用を促進する「読書の日」の設定、「学校司書」との連携、学校図書館ボランティアの活動等の支援
 - ⑥ 子どもたちの自立支援の推進に向けて、川西市独自の体験活動事業の「里山体験学習」や「先輩に学ぼう！」の実施
 - ⑦ 家庭学習の習慣化に向けて、「きんたくん学びの道場」の充実
 - ⑧ 学校におけるICT（情報通信技術）の活用及び整備
 - ⑨ 新学習システムによる個に応じたきめ細かい学習指導
- などの方策を推進し、「川西の教育」に示す「めざす人間像」、「5つの基本方針」を実現すべく取り組みます。

学校では、調査結果を踏まえて、「学力向上総合プラン」を策定します。

- ① 「めあて」「見通し」「振り返り」を明確にした「わかる授業」づくりの充実
- ② 基礎・基本の定着に向けた「学習タイム」の充実
- ③ 教職員の指導力向上に向けた「校内研究」の充実
- ④ 学校での学習と家庭学習をつなげる「自主学習」支援
- ⑤ 安心で安全な環境に向けた「学習規律」の確立
- ⑥ 子どもの豊かな心を育むための「言語活動（コミュニケーション能力）」、「道徳教育」、「体験活動」の充実

などの方策を位置付け、全職員一丸となって、児童生徒への教育指導の改善に取り組みます。

地域におきましては、社会全体で子どもたちを育てる環境づくりを期待します。

- ① 地域の人材や自然・文化などを活用した「総合的な学習の時間」や「体験学習」の充実
- ② 学校施設等を活用した「放課後こども教室」等、地域全体で子どもたちの学びを支える環境の整備
- ③ 子どもたちの自立支援の推進に向けた「仕事」のやりがいや楽しさを伝える「トライやる・ウィーク」などを核としたキャリア教育の展開
- ④ 「ふるさと川西」への帰着意識向上に向けた伝統的な行事の「地域的な行事」への参加・協力など、学校教育の中だけでは実現することができない側面の支援をご協力いただきたいと思います。

家庭におきましては、子どもたちの豊かな情操を育む基礎的な資質や能力の育成を期待します。

- ① 子どもたちの健やかな育ちに向けた基本的な生活習慣の確立
- ② 「家庭学習ハンドブック」等を活用し、自ら学び、考える力を育む家庭学習習慣の定着
- ③ 言語活動、豊かな人間関係の礎となる家庭での読書活動など、家族で一緒に取り組むことのできる活動の促進

など、子どもたちとともに取り組んでいただきますようお願いいたします。できたことをほめて、子どもたちのやる気を高め、主体的な行動を促すことは、自立した人間に育つためにも重要な要素です。

ご理解・ご協力をいただきますよう、よろしく願いいたします。